

# Windows Server® 2012 R2

## Hyper-V インストール手順書

第 1.1 版 2014/8/21

---

Microsoft、Windows、Windows Server、Active Directory および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

免責条項: 本書または本書に記述されている製品や技術に関して、日本電気株式会社またはその関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、日本電気株式会社およびその関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示または默示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。

無断転載を禁止します。

---

## 改版履歴

版数	日付	履歴
1	2014/7/10	新規作成
1.1	2014/8/21	VHDX ファイルに関する注意事項を修正

## 目次

0 はじめに .....	3
■ 対象 Windows OS .....	3
■ 本書で使う表記 .....	3
1 Hyper-V を使用するための準備 .....	4
■ Hyper-V セットアップ手順フロー .....	5
2 Hyper-V の有効化 .....	6
3 仮想マシン作成とゲスト OS のインストール .....	16
■ 仮想マシンの新規作成 .....	16
■ 仮想スイッチの作成 .....	26
■ 仮想ハードディスクの作成 .....	28
■ ゲスト OS のインストール .....	34
■ 統合サービスのインストール .....	39
4 仮想マシンのエクスポートとインポート .....	41
■ 仮想マシンのエクスポート .....	41
■ 仮想マシンのインポート .....	43
5 ゲスト OS について .....	47
■ ゲスト OS のライセンス認証 .....	47
6 トラブルシューティング .....	47

# 0 はじめに

本書は、NX7700x シリーズで Windows Server 2012 R2 Hyper-V (以降 Hyper-V と記載)を使用する方法について説明しています。

Hyper-V をご使用のときは、まず初めに必ず下記の Web サイトを確認してください。

『Windows Server 2012 R2 Hyper-V のサポートについて』  
[http://jpn.nec.com/nx7700x/support/ws2012r2\\_hyper-v.html](http://jpn.nec.com/nx7700x/support/ws2012r2_hyper-v.html)

## ■ 対象 Windows OS

以下の Windows OS をサポートしています。  
インストールオプションは、GUI 使用サーバーのみです。

本書の表記	Windows OS の名称
Windows Server 2012 R2	Windows Server 2012 R2 Standard
	Windows Server 2012 R2 Datacenter

## ■ 本書で使う表記

本文中で使用するこれらの記号は、次のような意味があります。



Hyper-V を使用する上で守らなければならない事柄や特に注意をすべき点を示します。



Hyper-V を使用する上で確認しておかなければならないことについて示します。



知っておくと役立つ情報、便利なことについて示しています。

# 1 Hyper-V を使用するための準備

Hyper-V を使用する前に、次の内容を確認します。

- NX7700x シリーズ(ホスト)が Hyper-V サポート対象のモデルであることを確認してください。

『Windows Server 2012 R2 Hyper-V サポート対象モデル』  
[http://jpn.nec.com/nx7700x/support/ws2012r2\\_hyper-v.html](http://jpn.nec.com/nx7700x/support/ws2012r2_hyper-v.html)

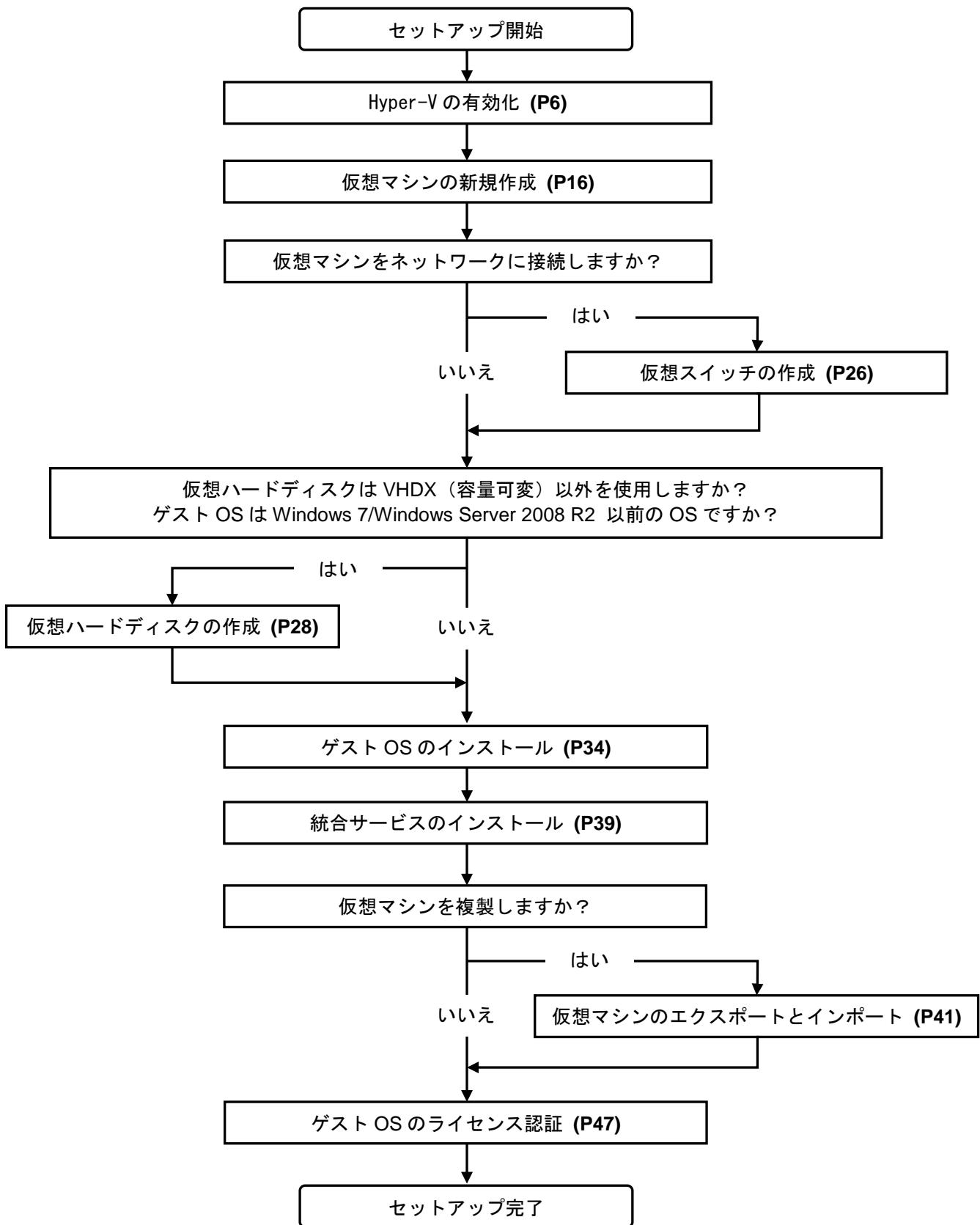
- BIOS の設定画面から「Virtualization Technology」と「Execute Disable Bit」が有効になっていることを確認してください。これらが有効になっていないときは、BIOS の設定を変更してください。BIOS の設定方法については、各装置のユーザーズガイドを参照してください。



ドキュメント(ユーザーズガイド)は、EXPRESSBUILDER に収められています。  
EXPRESSBUILDER のメニュー画面から「→ドキュメントを読む」または「→説明書を読む」を参照してください。

## ■ Hyper-V セットアップ手順フロー

次の手順に従って Hyper-V をセットアップします。

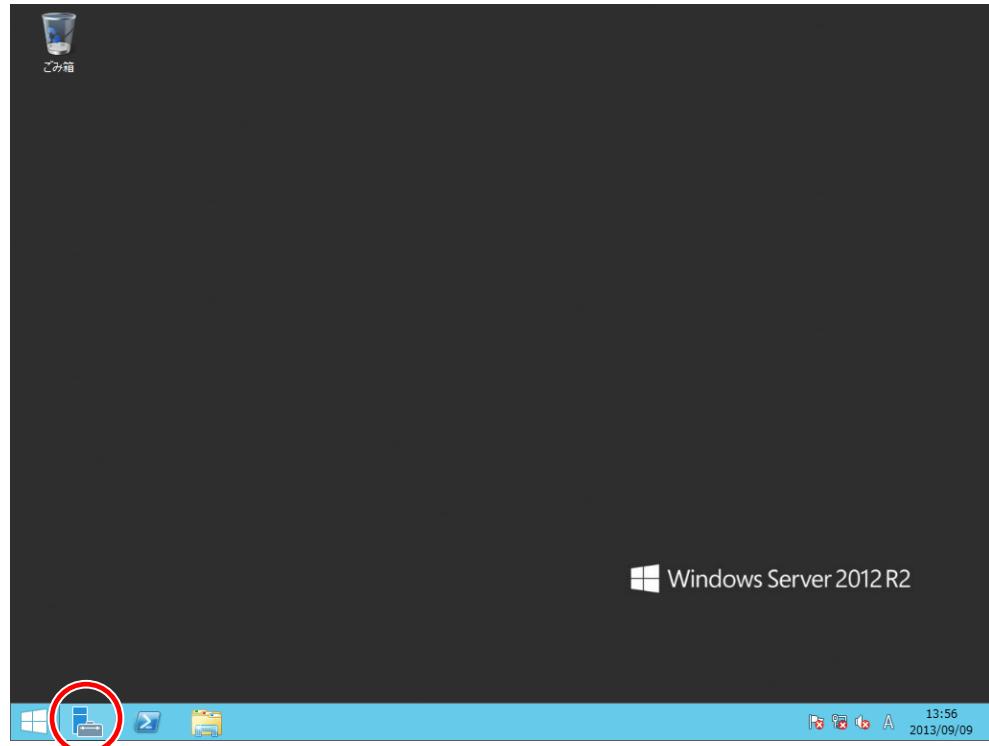


## 2 Hyper-V の有効化

ここでは、Hyper-V の機能を有効にする方法について説明します。

次の手順に従って Hyper-V を有効化します。

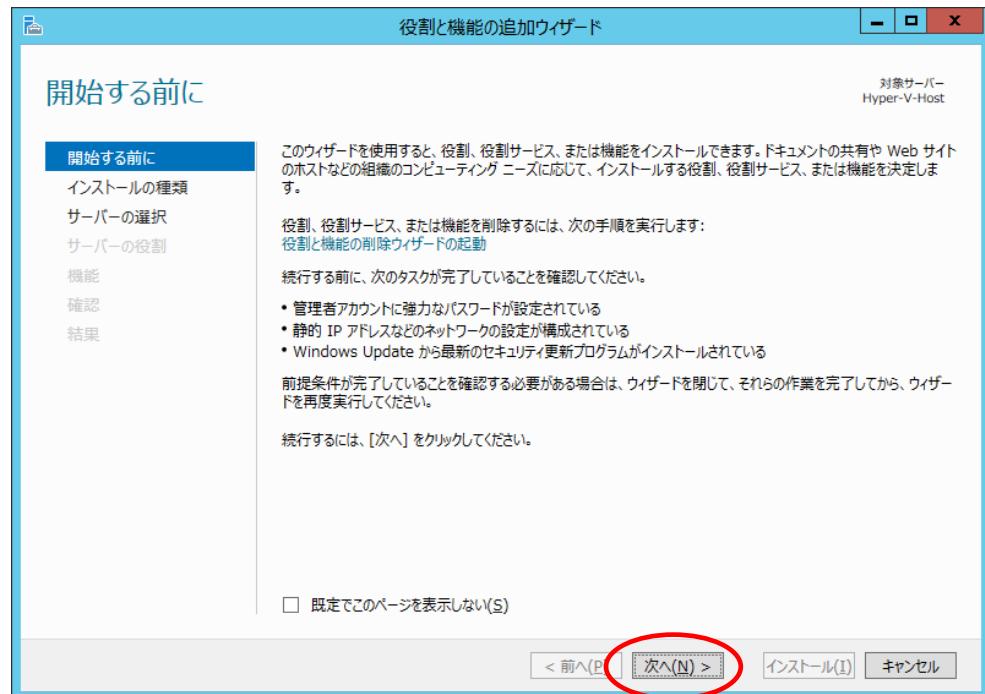
1. デスクトップのタスクバーにある  (サーバーマネージャー) をクリックします。  
サーバーマネージャーが起動します。



2. サーバーマネージャー画面の[2 役割と機能の追加]をクリックします。

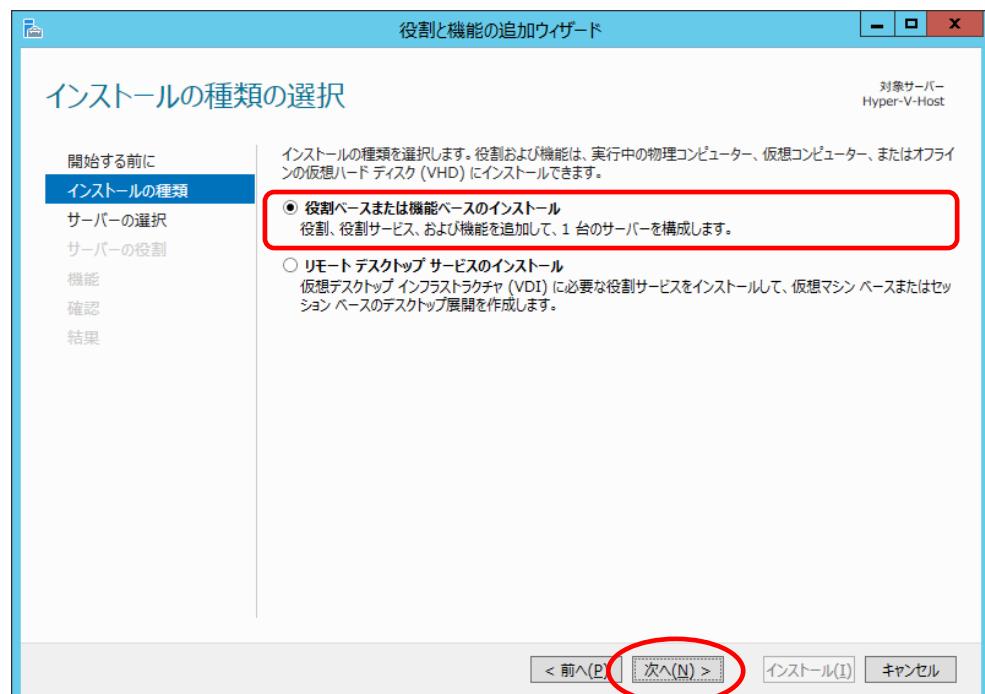


3. 内容を確認し、[次へ]をクリックします。

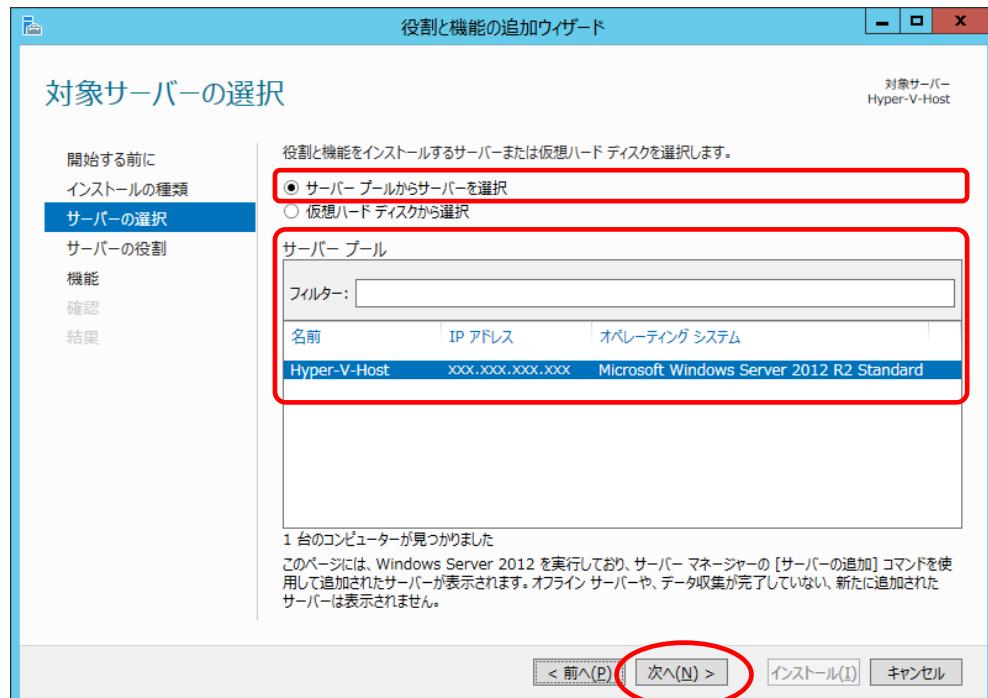


4. インストールの種類の選択をします。

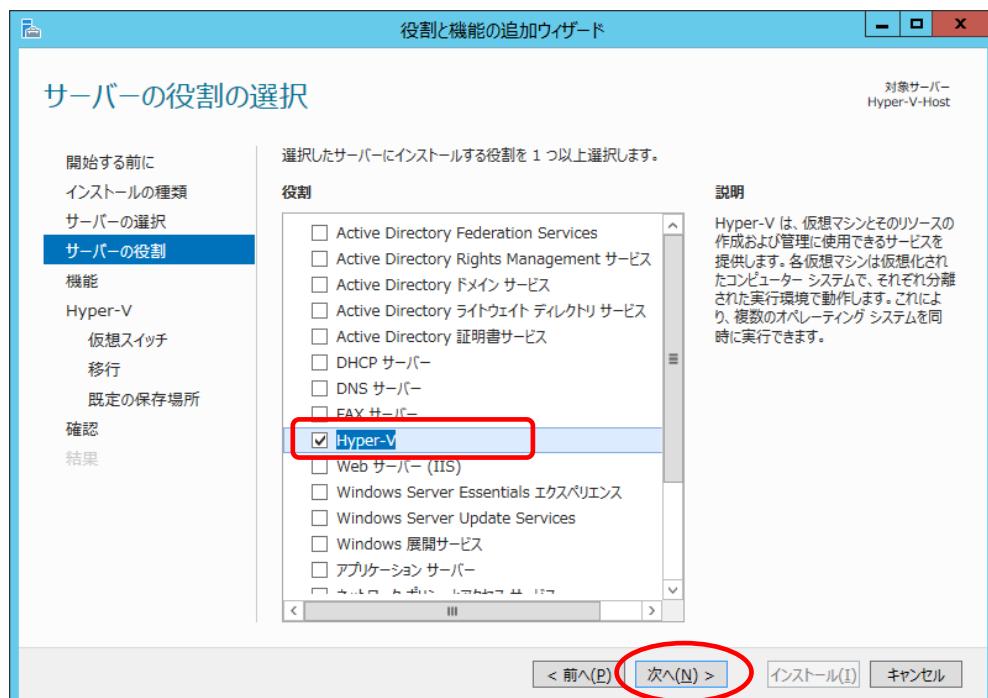
[役割ベースまたは機能ベースのインストール]にチェックを入れ、[次へ]をクリックします。



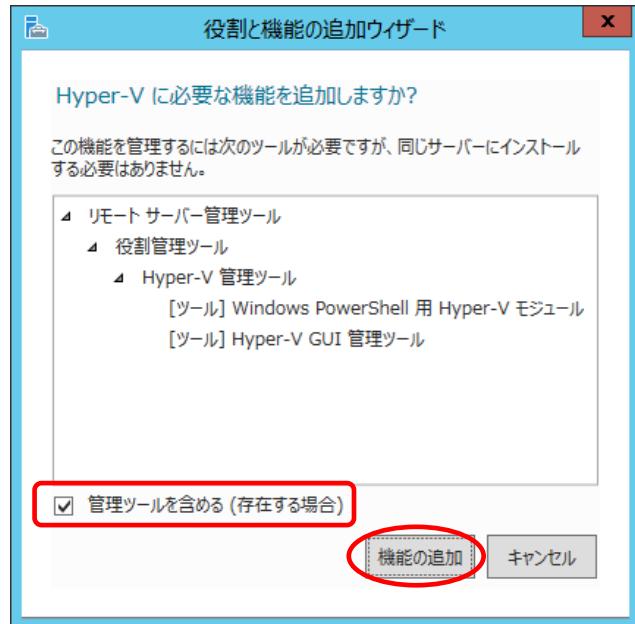
5. [サーバー プールからサーバーを選択]にチェックを入れ、[サーバー プール]に表示されている該当サーバーを選択し、[次へ]をクリックします。



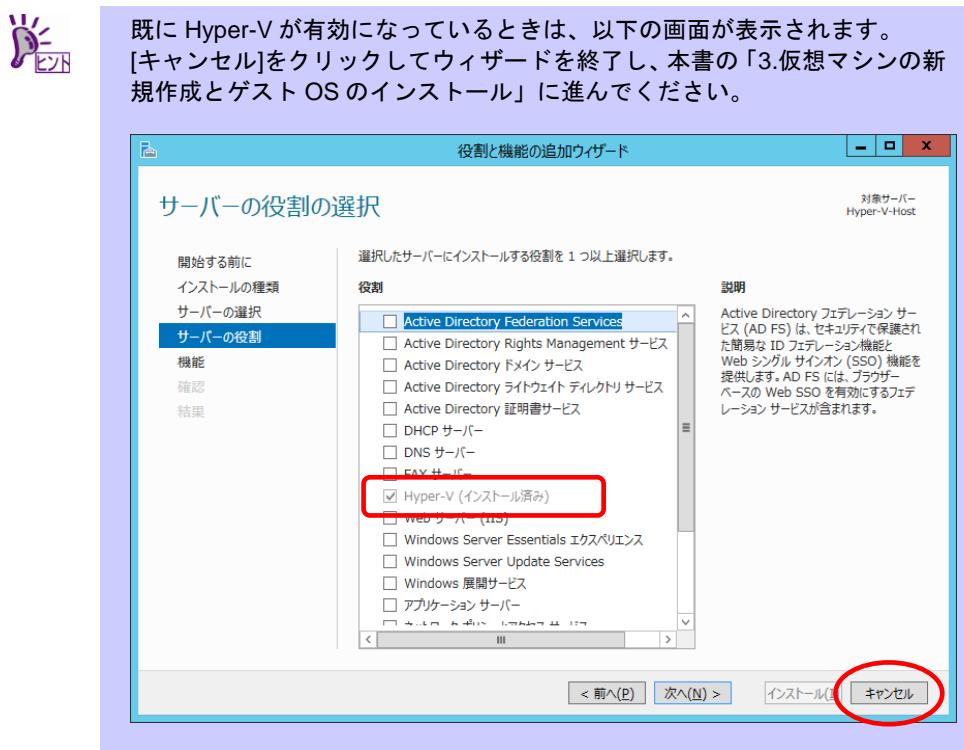
6. [役割]の[Hyper-V]にチェックを入れます。



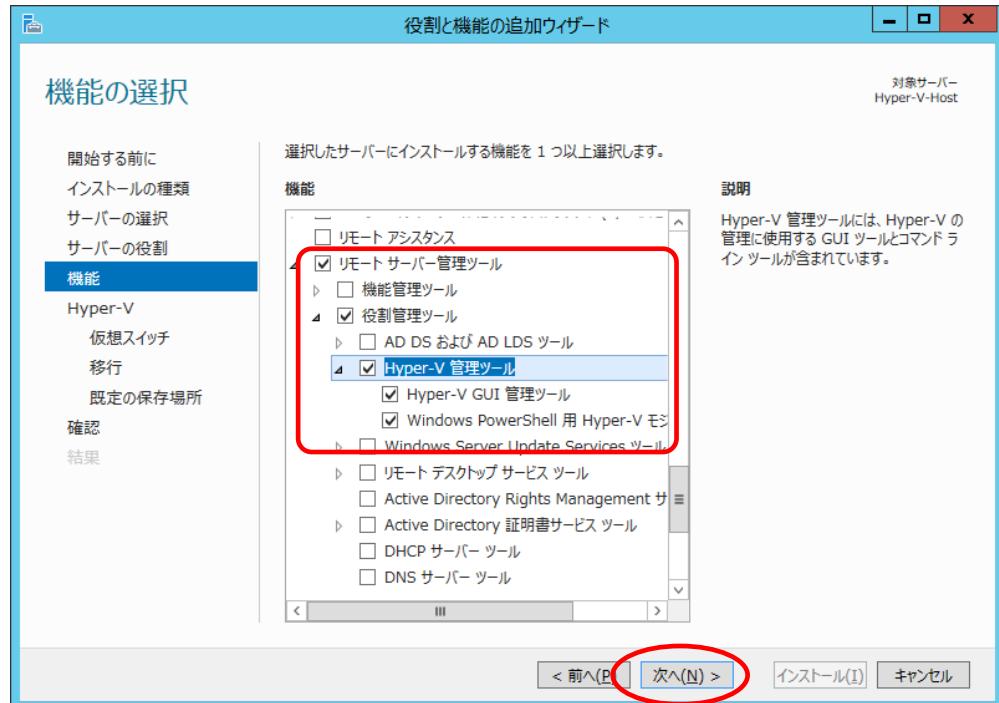
[管理ツールを含める]にチェックが入っていることを確認し、[機能の追加]をクリックします。



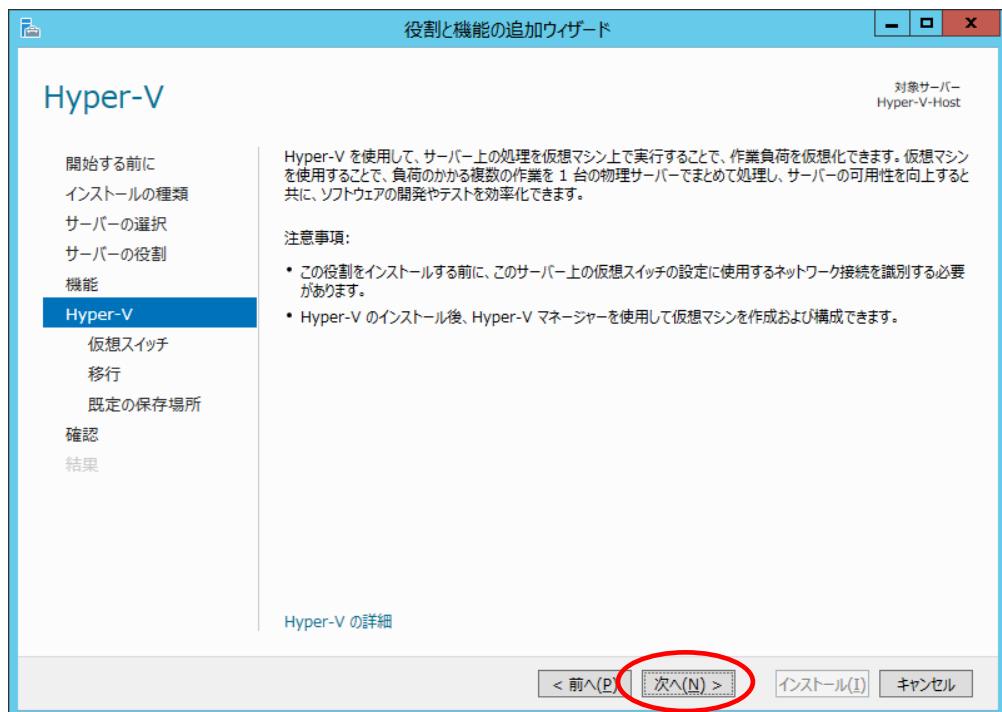
[サーバーの役割の選択]画面で、[次へ]をクリックします。



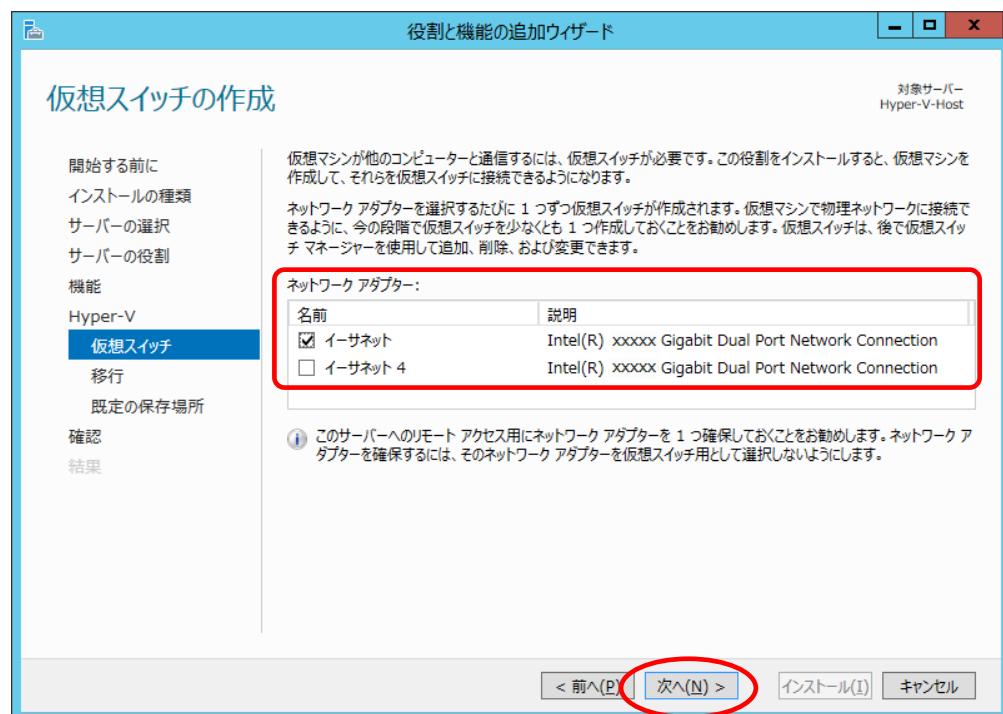
7. [リモート サーバー管理ツール] – [役割管理ツール] – [Hyper-V 管理ツール] の [Hyper-V GUI 管理ツール]と[Windows PowerShell 用 Hyper-V モジュール]にチェックが入っていることを確認し、[次へ]をクリックします。



8. 内容を確認し、[次へ]をクリックします。

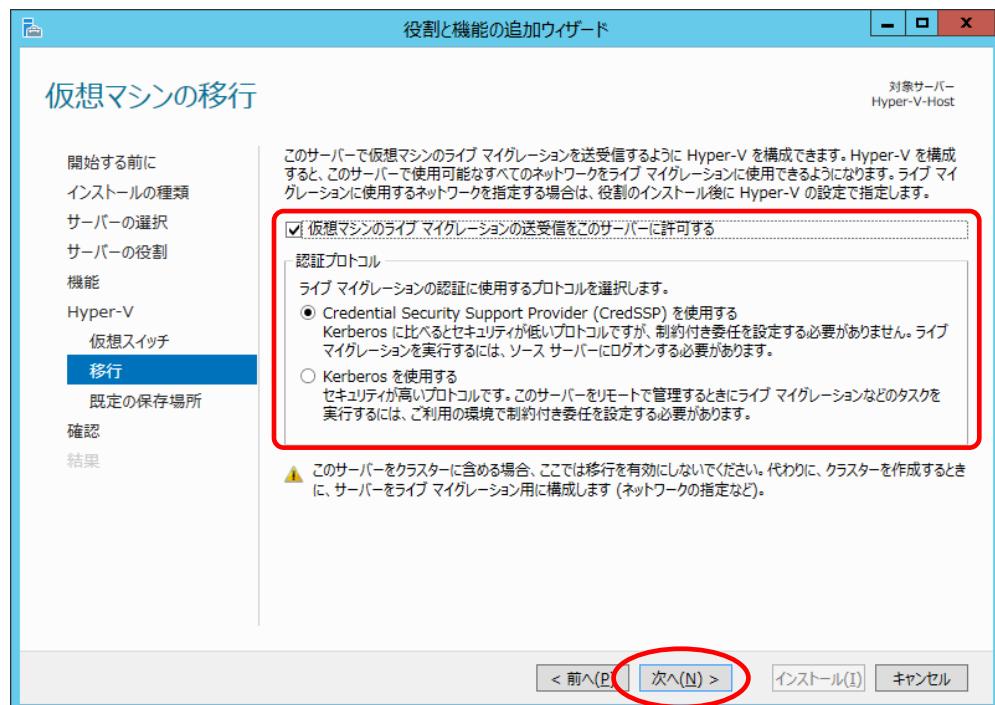


9. 必要に応じて仮想マシンで使用する仮想スイッチ用のネットワークアダプターにチェックを入れ、[次へ]をクリックします。



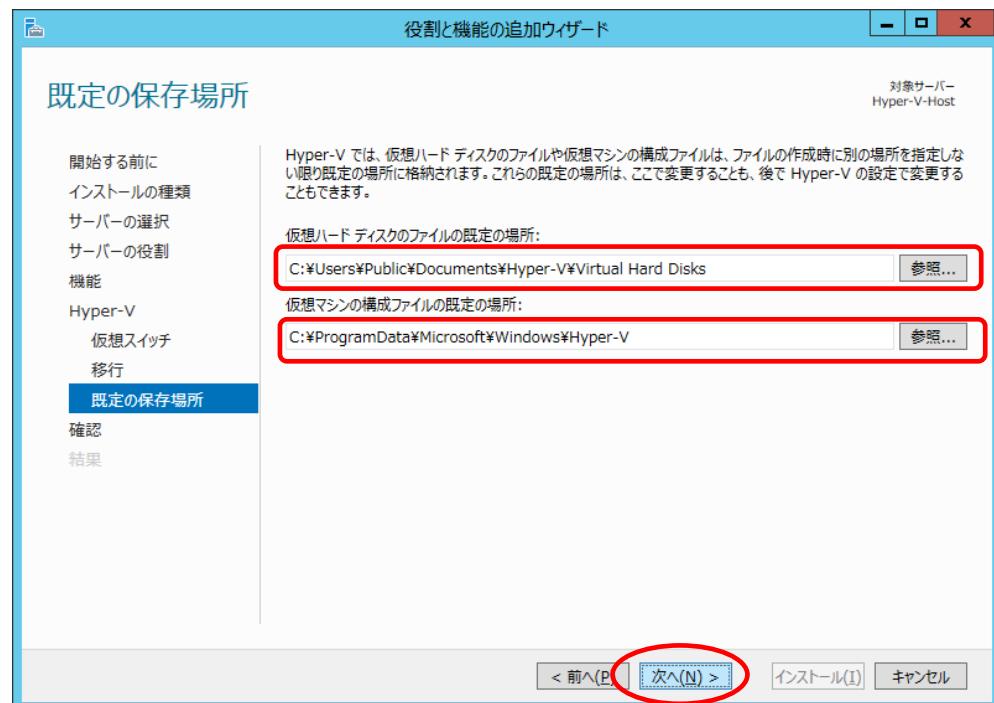
- ネットワークに接続されていない物理ネットワークアダプターは、表示されません。
- 仮想マシンを外部のネットワークに接続しないときは、ここで仮想スイッチを作成する必要はありません。
- 仮想スイッチは、Hyper-V を有効にしたあとに作成することもできます。本書の「■ 仮想スイッチの作成」を参照してください。

10. 必要に応じて[仮想マシンのライブ マイグレーションの送受信をこのサーバーに許可する]にチェックを入れ、[次へ]をクリックします。



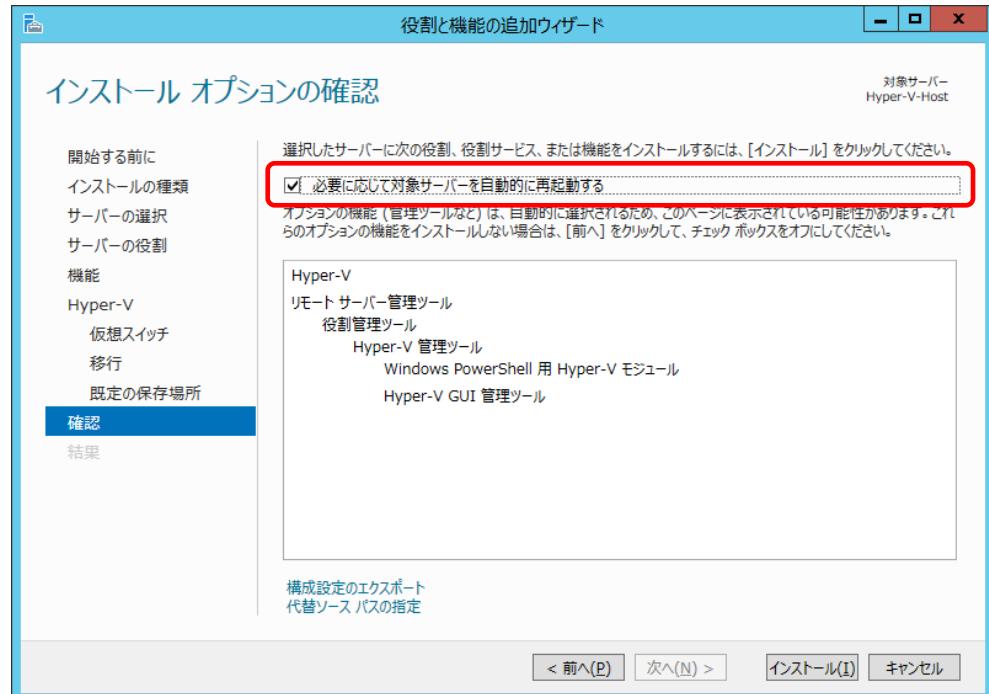
- ライブ マイグレーションを有効にするときは、事前にドメインに参加している必要があります。  
• ライブ マイグレーションは、Hyper-V を有効にしたあとに設定することもできます。

11. 必要に応じて仮想ハードディスクと仮想マシンの構成ファイルの既定の場所を変更し、[次へ]をクリックします。

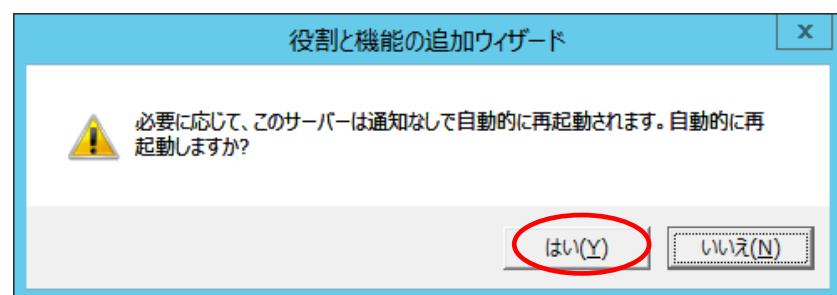


仮想ハードディスクと仮想マシンの構成ファイルの既定の場所は、Hyper-V を有効にしたあとに変更することもできます。

12. [必要に応じて対象サーバーを自動的に再起動する]にチェックを入れます。



チェックを入れると次の画面が表示されます。  
内容を確認し、[はい]をクリックします。

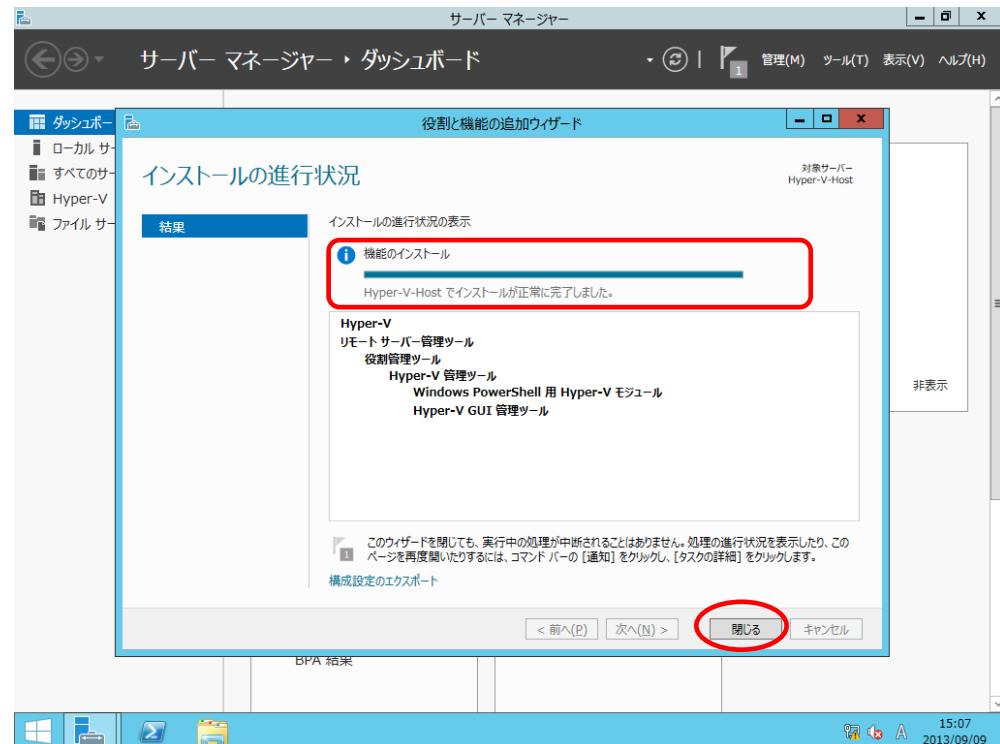


[インストール オプションの確認] 画面で、[インストール]をクリックします。  
有効化中に再起動は 2 回行われます。



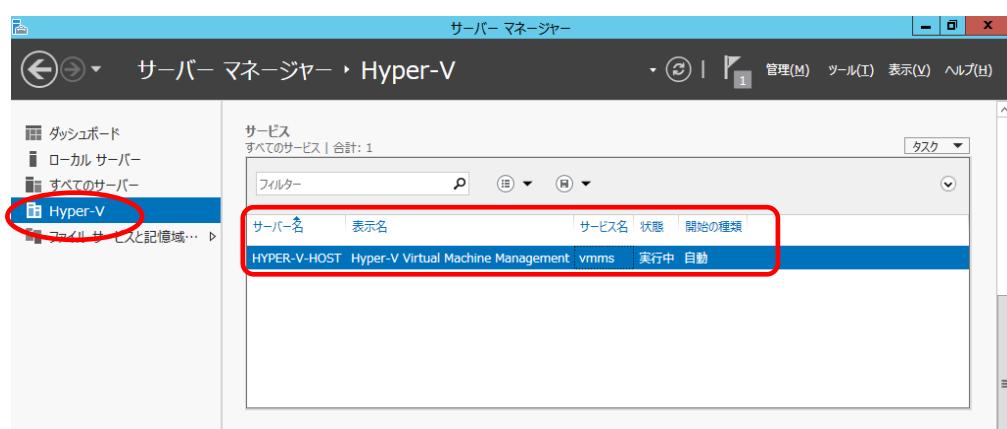
- インストールが完了するまで、サーバーマネージャーを閉じないでください。
- 手動で再起動をしたときは、手順 13 の画面は表示されません。

13. 2回目の再起動後、インストールが正常に完了したことを確認し、[閉じる]をクリックします。  
[閉じる]をクリックすると、サーバーマネージャー画面に戻ります。



[サーバーマネージャーのプロパティ]で[ログオン時にサーバーマネージャーを自動的に起動しない]に設定しているときは、再起動後に  (サーバーマネージャー) をクリックしてください。

14. サーバーマネージャー画面の左ペインで、[Hyper-V]をクリックします。  
画面を下にスクロールし、[サービス]の[Hyper-V Virtual Machine Management]の状態が [実行中]であることを確認します。



以上で Hyper-V の有効化は完了です。

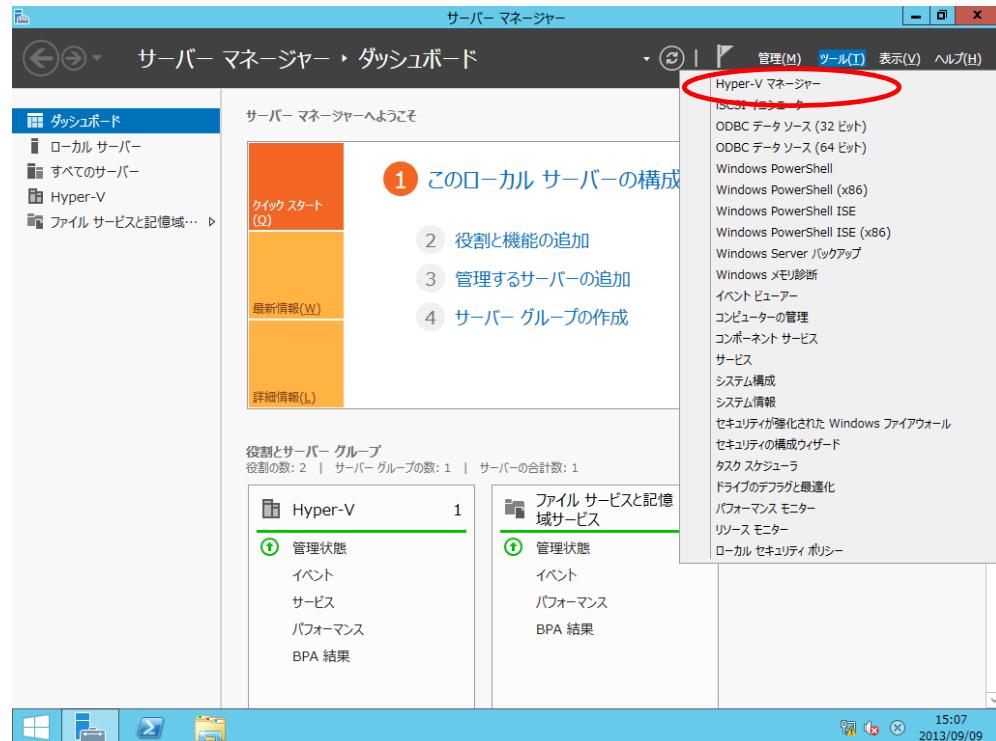
## 3 仮想マシン作成とゲスト OS のインストール

ここでは、仮想マシンの新規作成、ゲスト OS のインストール、統合サービスのインストールについて説明します。

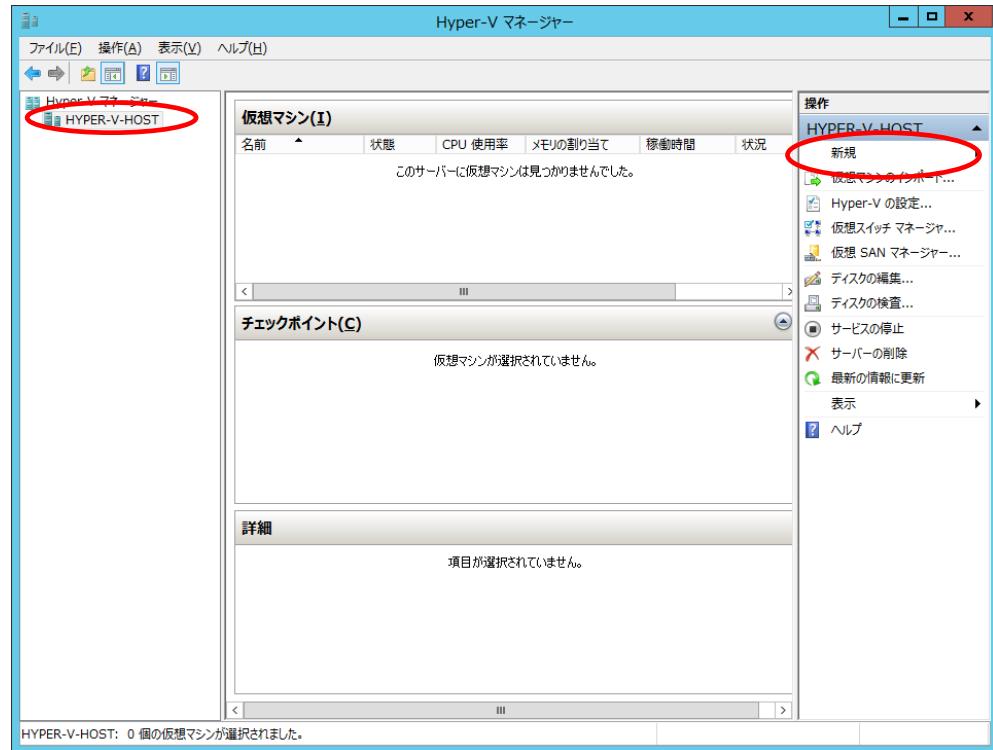
### ■ 仮想マシンの新規作成

次の手順に従って仮想マシンを作成します。

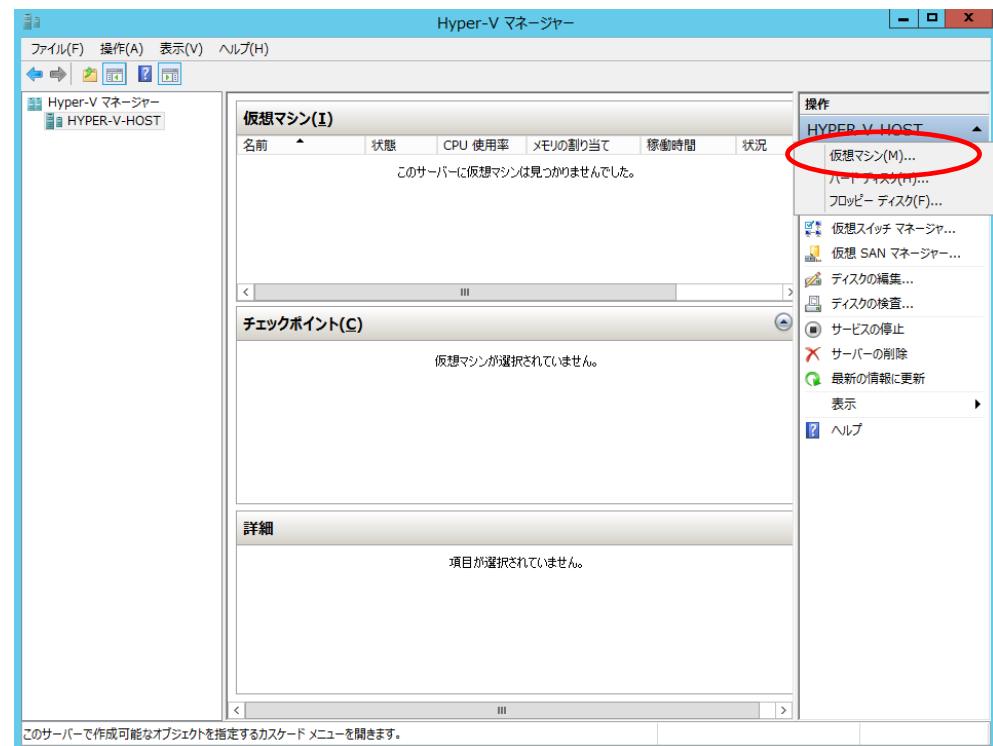
1. サーバーマネージャーから[ツール]をクリックし、[Hyper-V マネージャー]をクリックします。  
[Hyper-V マネージャー] 画面が表示されます。



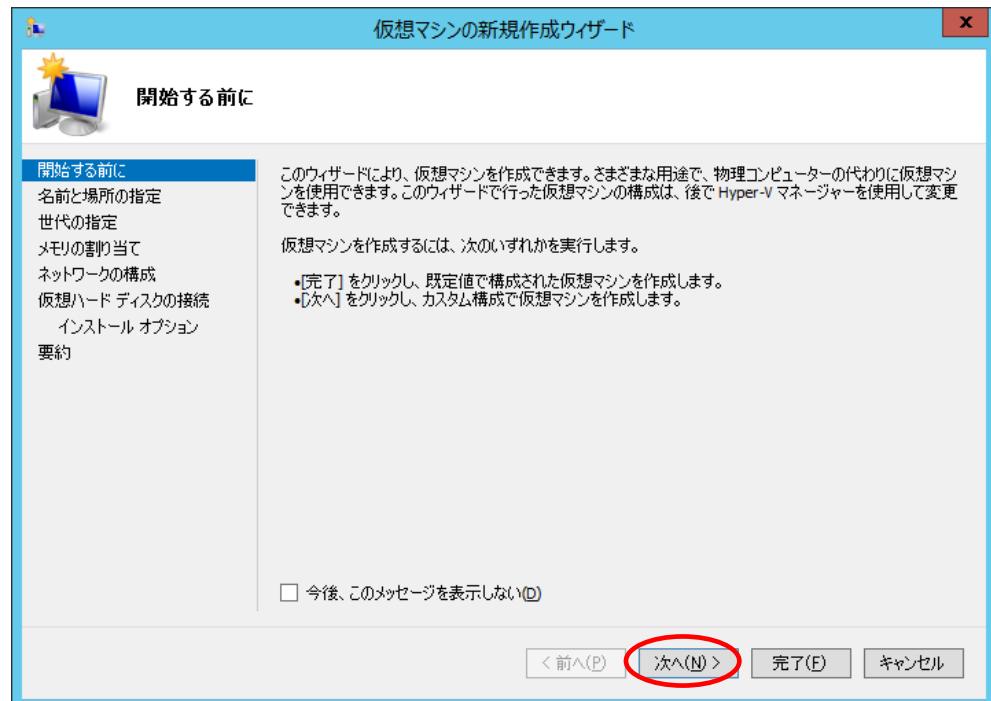
2. 左ペインのツリーから [Hyper-V マネージャー] - [<サーバー名>] をクリックし、右ペインの操作メニューから[新規]をクリックします。



3. コンテキストメニューから[仮想マシン]をクリックします。  
仮想マシンの新規作成ウィザードが表示されます。



4. 画面の内容を確認し、[次へ]をクリックします。



[完了]をクリックしたときは、全てデフォルトの設定で仮想マシンが作成されます。各設定のデフォルト値は次の通りです。

名前	: 新しい仮想マシン
世代	: 第1世代
メモリ	: 512MB
ネットワークの構成	: 接続しない
ハードディスク	: 仮想ハードディスクのファイルの既定の場所 ￥新しい仮想マシン.vhdx
オペレーティングシステム	: 後でインストールされます

[オペレーティングシステム]で[後でインストールされます]を設定した場合は、ゲストOSをインストールするときに、インストールオプションを手動で変更する必要があります。

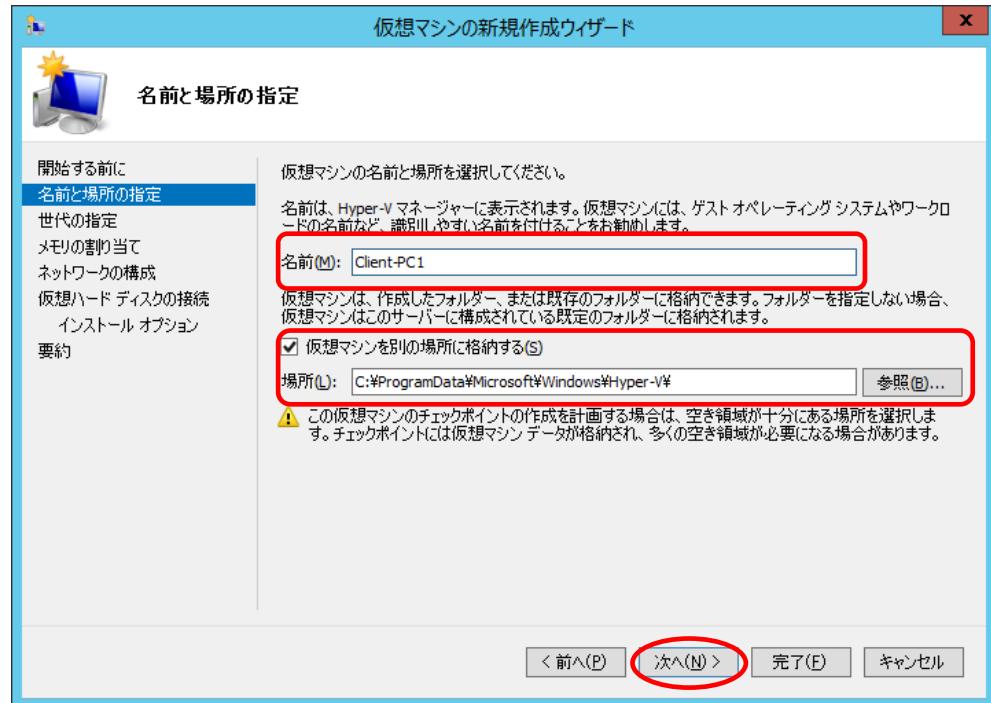
インストールオプションの詳細は、P24の手順10を参照してください。

インストールオプションの変更は、本書の「■ ゲストOSのインストール」を参照してください。



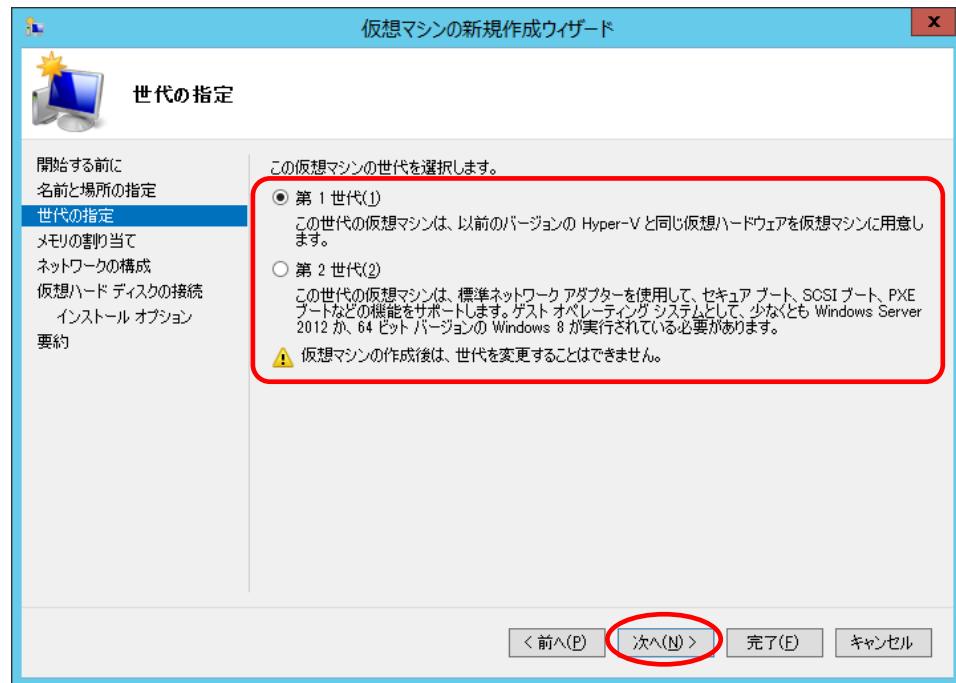
**Windows Server 2008 R2 (Service Pack 1を含まない) または Windows 7 (Service Pack 1を含まない) 以前の ゲストOSをVHDXファイルにインストールするときは、仮想ハードディスクの制限事項があります。**  
**ここでは [完了] を選択せず、P32の手順8の「重要」を参照してください。**

5. 仮想マシンの[名前]を入力し、[次へ]をクリックします。



仮想マシンの格納先を変更するときは、[仮想マシンを別の場所に格納する]にチェックを入れ、フォルダーを指定します。

6. 仮想マシンの世代を選択し、[次へ]をクリックします。  
ここでは例として[第1世代]を選択します。



仮想マシンの世代は、次のいずれかを選択します。

○ 第1世代

Windows Server 2012 以前の Hyper-V による仮想マシンが該当します。  
特徴としてレガシーデバイスがサポートされています。

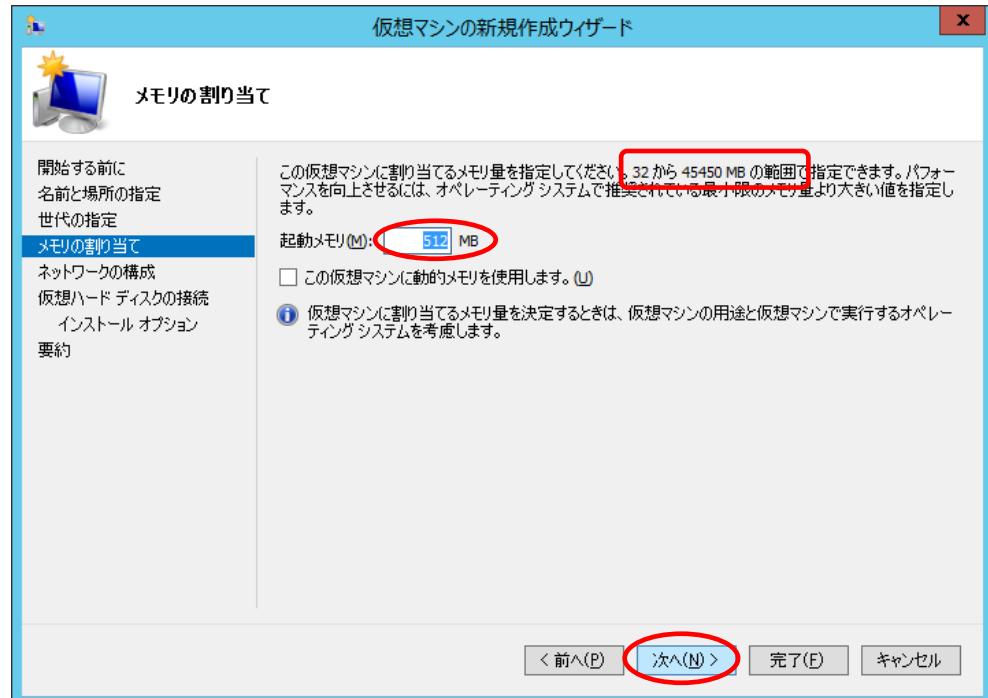
○ 第2世代

セキュアブート、SCSI ブート、PXE ブートなどが新たに利用できます。  
パフォーマンス改善のため、レガシーデバイスはサポートしていません。



- 第2世代は、ゲスト OS として、Windows Server 2012 または Windows 8 x64 以降の OS のみ使用できます。
- 仮想マシンの作成後、世代を変更することはできません。

7. 仮想マシンに割り当てるメモリ量を指定し、[次へ]をクリックします。



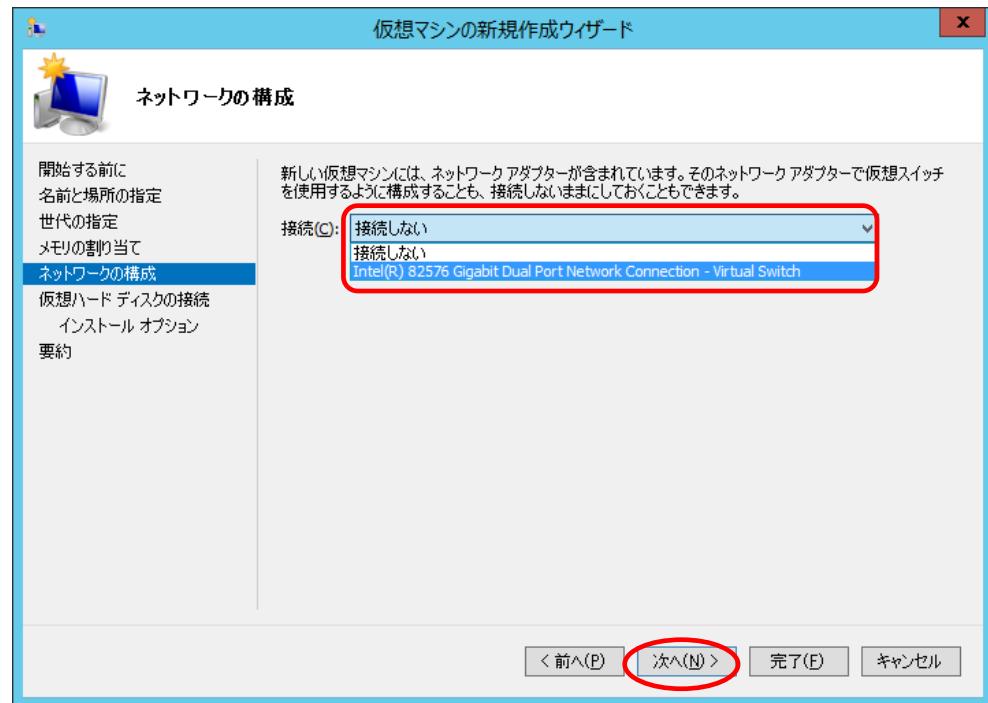
- 仮想マシンに割り当てるメモリ量は、32MBから最大1,048,576MB(1TB)まで指定することができます。(ウィザードに表示されている数値より大きいメモリ量は指定できません)
  - 動的メモリを使用するときは[この仮想マシンに動的メモリを使用します]にチェックを入れます。  
チェックを入れると、各メモリ量は以下の通りに設定されます。
- スタートアップ RAM : [起動メモリ]に入力した値  
○ 最小 RAM : 512MB (\*)  
○ 最大 RAM : 1,048,576MB

\* [起動メモリ]に512MB未満の値を入力したときは、起動メモリと同じ値が設定されます。



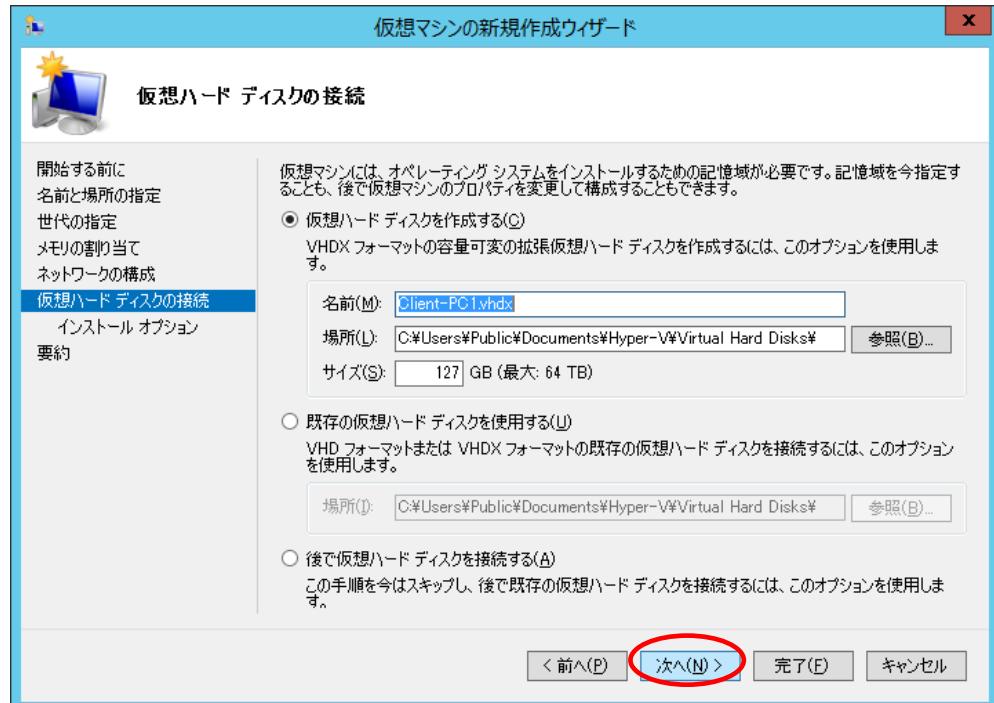
Windows Server 2012 R2をゲストOSとしてインストールするときは、[起動メモリ]に800MBを超えるメモリ量を指定してください。  
800MB以下での運用が必要なときは、ゲストOSのインストールが完了した後に、仮想マシンの設定画面でメモリ設定を変更してください。

8. ネットワークの構成を設定し、[次へ]をクリックします。  
[接続]プルダウンメニューより、[接続しない]またはHyper-V有効化時や事前に作成した仮想スイッチを指定できます。



仮想スイッチの作成については、本書の「■ 仮想スイッチの作成」を参照してください。

9. 使用する仮想ハードディスクを設定し、[次へ]をクリックします。



仮想ハードディスクは必要に応じて、次のいずれかを選択します。

仮想ハードディスクを作成する

新規に容量可変の仮想ハードディスクを作成します。

選択したときは次の内容で設定されます。

ハードディスクフォーマット : VHDX  
ディスクの種類 : 容量可変

既存の仮想ハードディスクを使用する

事前に作成した仮想ハードディスクを使用します。

後で仮想ハードディスクを接続する

仮想マシン作成後に仮想ハードディスクを接続します。

選択したときは、この時点では仮想ハードディスクは作成されません。

仮想ハードディスクを新規作成したあとに手動で接続し、インストールオプションを手動で設定します。

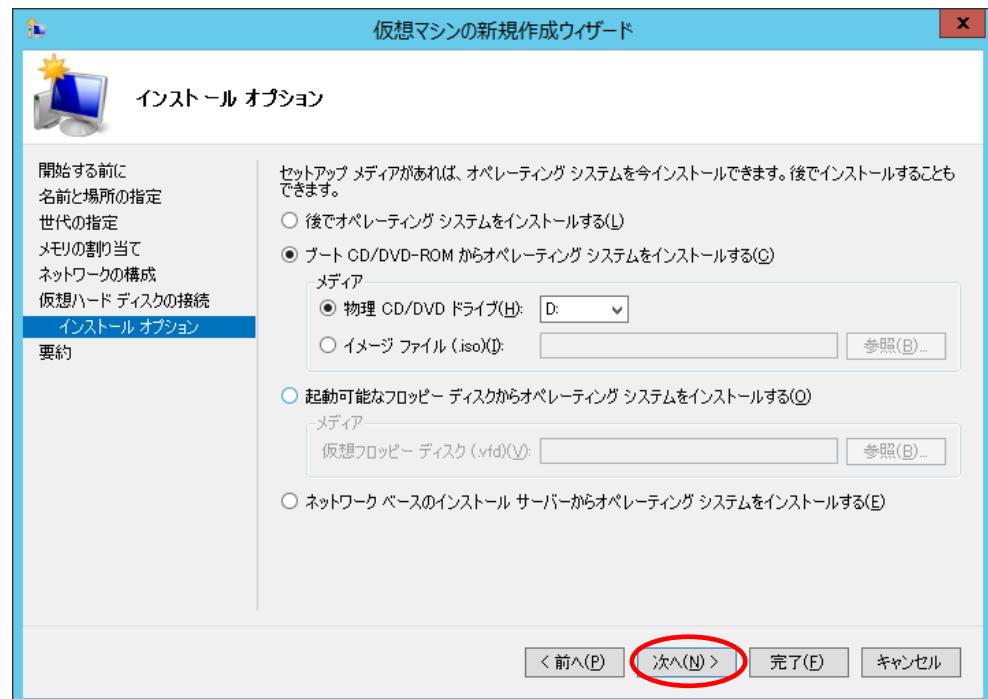
仮想ハードディスクの作成は、本書の「■仮想ハードディスクの作成」を参照してください。

仮想ハードディスクの接続手順とインストールオプションの設定手順は、本書の「■ゲストOSのインストール」を参照してください。



Windows Server 2008 R2 (Service Pack 1を含まない) または Windows 7 (Service Pack 1を含まない) 以前の ゲストOSを VHDX ファイルにインストールするときは、仮想ハードディスクの制限事項があります。  
ここでは[仮想ハードディスクを作成する]を選択せず、P32 の手順 8 の「重要」を参照してください。

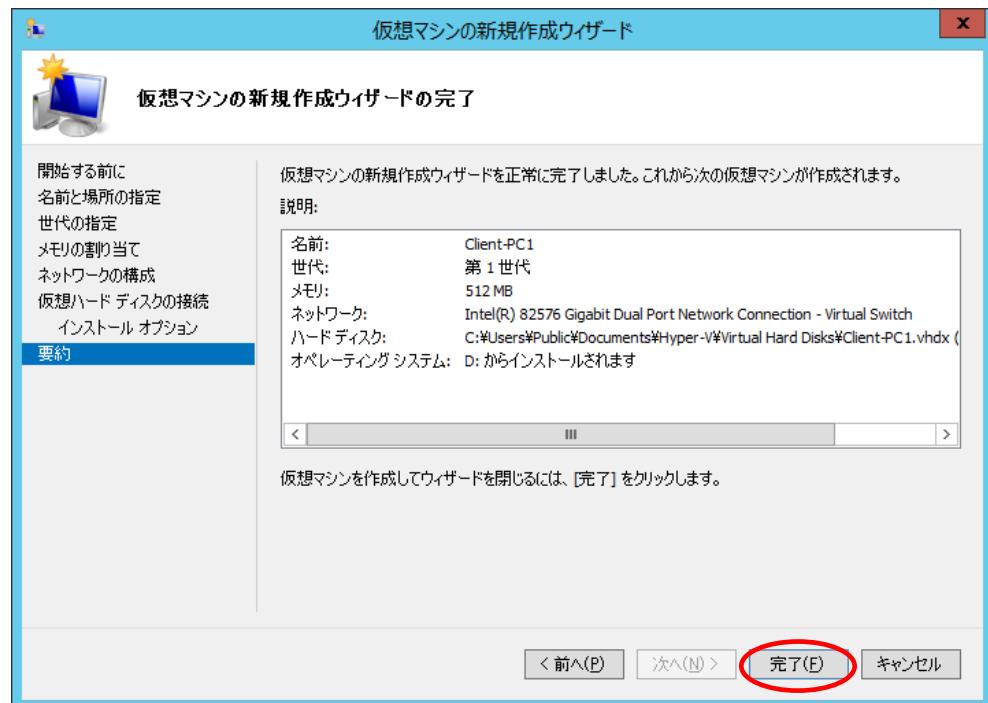
10. インストールオプションを設定し、[次へ]をクリックします。



インストールオプションは、次のいずれかを選択します。

- 後でオペレーティングシステムをインストールする  
何も設定されません。
- ブート CD/DVD-ROM からオペレーティングシステムをインストールする
  - 物理 CD/DVD ドライブ  
物理 CD/DVD ドライブを仮想マシンから使用できるように設定します。
  - イメージファイル  
ISO 形式の CD/DVD イメージファイルを仮想マシンから使用できるように設定します。
- ブートフロッピーディスクからオペレーティングシステムをインストールする  
フロッピーディスクからブートするために仮想フロッピーディスクを設定します。
- ネットワークベースのインストールサーバーからオペレーティングシステムをインストールする  
インストールサーバーから OS をインストールします。

11. 設定内容を確認し、[完了]をクリックします。



以上で仮想マシンの作成は完了です。

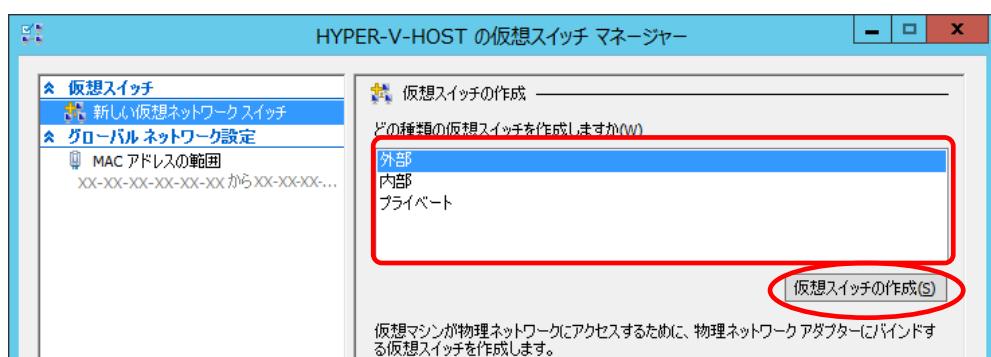
## ■ 仮想スイッチの作成

次の手順に従って仮想スイッチを作成します。

1. サーバーマネージャーから[ツール]をクリックし、[Hyper-V マネージャー]をクリックします。[Hyper-V マネージャー] 画面が表示されます。
  2. [Hyper-V マネージャー] 画面の右ペインで[仮想スイッチ マネージャー]をクリックします。仮想スイッチの新規作成・編集画面が表示されます。



3. 仮想スイッチの種類を選択し、[仮想スイッチの作成]をクリックします。



仮想スイッチには、次の種類があります。  
それぞれ以下の範囲での通信が可能です。

## ○ 外部

- ・仮想マシンと外部に配置されているサーバー
  - ・仮想マシンとホスト
  - ・仮想マシンと同一ホスト上に存在している他の仮想マシン

## ○ 内部

- ・仮想マシンとホスト
  - ・仮想マシンと同一ホスト上に存在している他の仮想マシン

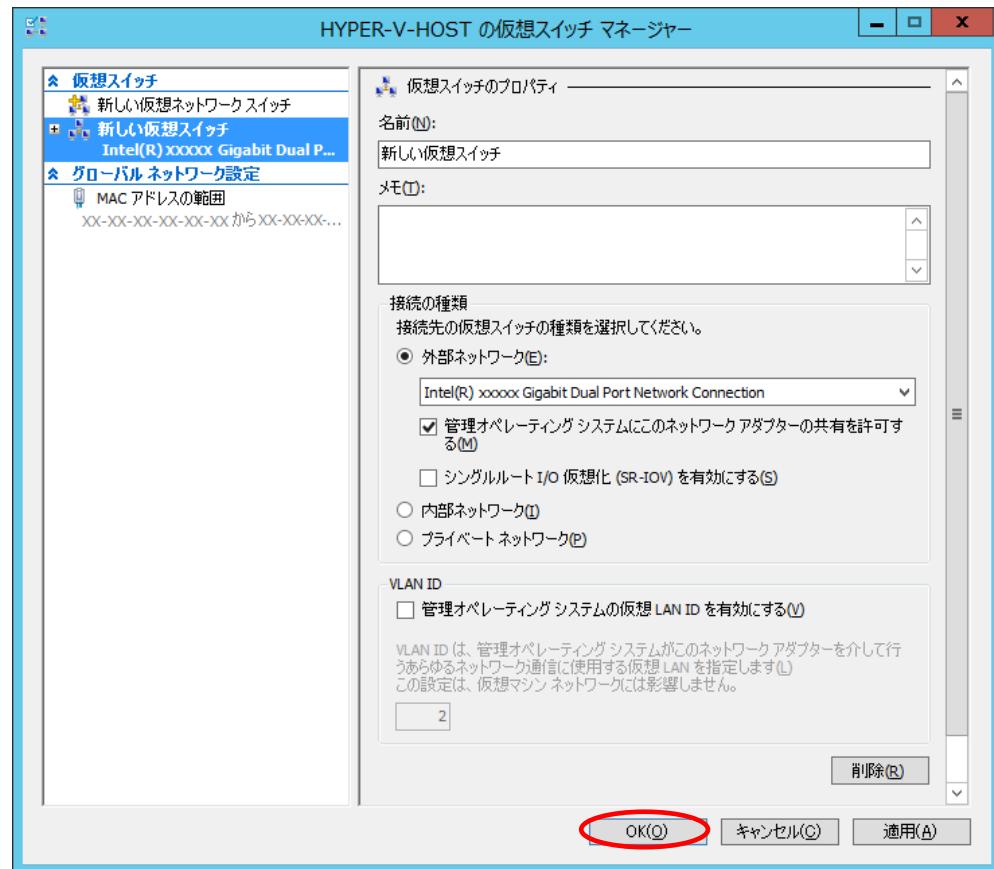
\* このネットワークは、物理ネットワークアダプターにバインドされない仮想スイッチになります。

## ○ プライベート

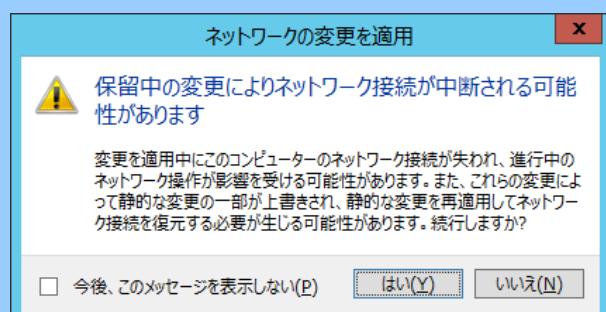
- ・仮想マシンと同一ホスト上に存在している他の仮想マシン

\* 仮想プライベートネットワークは仮想スイッチの一種ですが、ホスト上に仮想ネットワークアダプターは作成されません。

4. 作成された仮想スイッチで問題なければ、[OK]をクリックします。



外部ネットワークを作成するとき、[OK]をクリック後に次のメッセージが表示されます。



このコンピュータのネットワーク接続が失われる可能性があります。  
マシンを運用中は問題がないときのみ[はい]をクリックしてください。



[外部ネットワーク]を選択したとき、デフォルトで[管理オペレーティングシステムにこのネットワークアダプターの共有を許可する]にチェックが入ります。

チェックを有効にしていると、この仮想スイッチに接続された仮想ネットワークアダプターがホスト上に作成され、ホスト上からこの仮想スイッチを利用できるようになります。

チェックを外したときは、外部ネットワークに割り当てた物理ネットワークアダプターをホスト上で利用できません。

以上で仮想スイッチの作成は完了です。

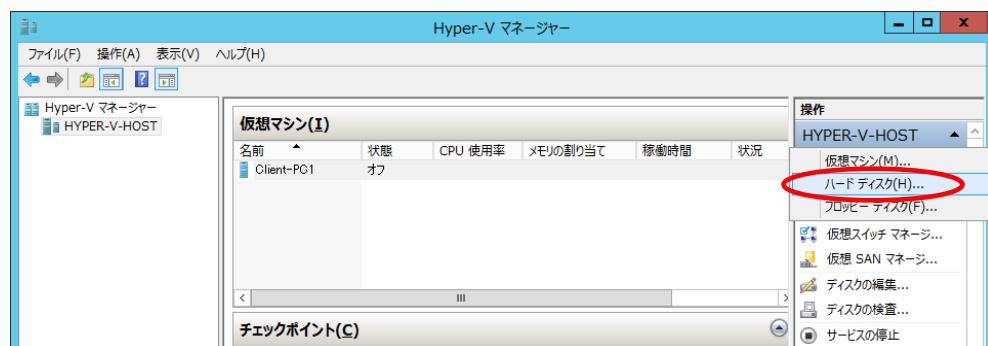
## ■ 仮想ハードディスクの作成

次の手順に従って仮想ハードディスクを作成します。

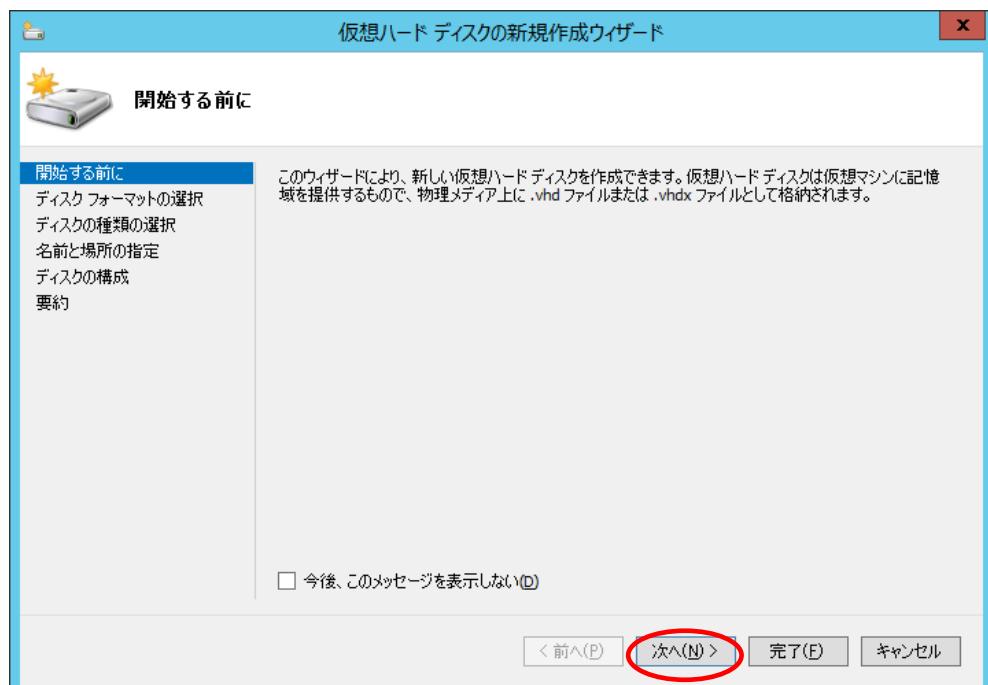


Windows Server 2008 R2 (Service Pack 1を含まない) または Windows 7 (Service Pack 1を含まない) 以前の ゲスト OS を VHDX ファイルにインストールするときは、P32 の手順 8 の「重要」を参照して仮想ハードディスクを作成してください。

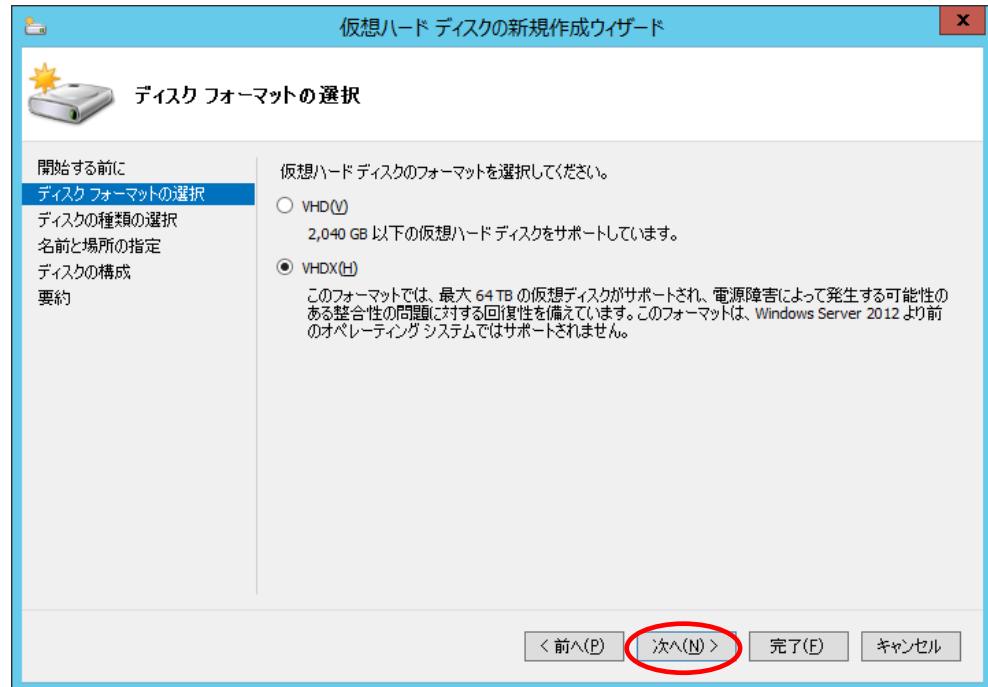
1. サーバーマネージャーから[ツール]をクリックし、[Hyper-Vマネージャー]をクリックします。  
[Hyper-V マネージャー]画面が表示されます。
2. [Hyper-V マネージャー]画面の右ペインの操作メニューから[新規]をクリックし、さらにコンテキストメニューから[ハードディスク]をクリックします。  
仮想ハードディスクの新規作成ウィザードが表示されます。



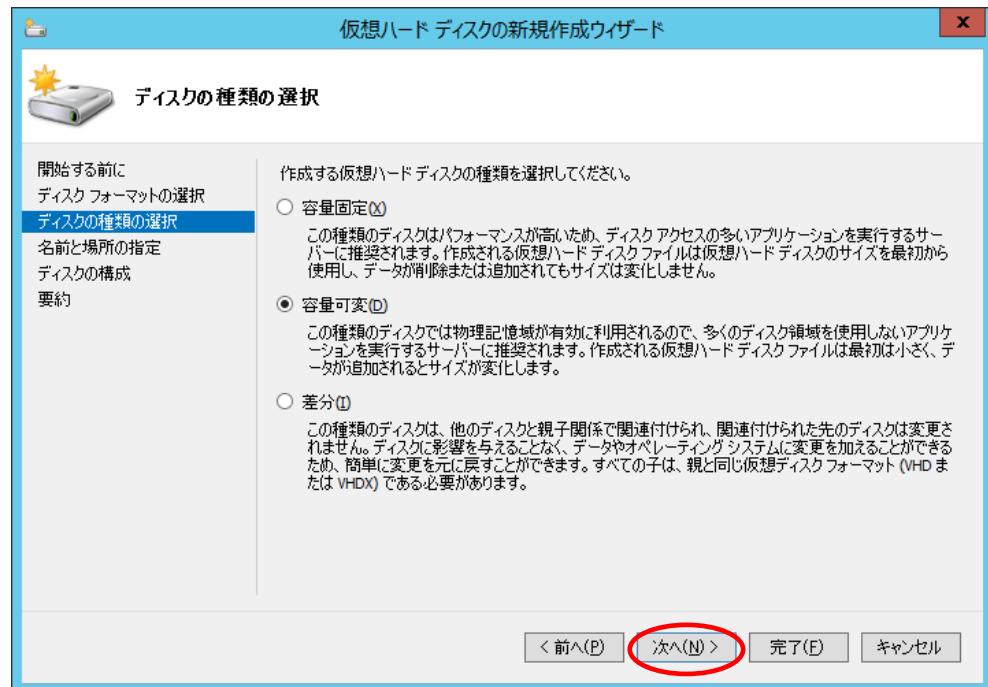
3. 画面の内容を確認し、[次へ]をクリックします。



4. 作成したい仮想ハードディスクのフォーマットを選択し、[次へ]をクリックします。



5. 仮想ハードディスクの種類を選択し、[次へ]をクリックします。





仮想ハードディスクの種類には、それぞれ次の特徴があります。

○ 容量固定

作成時に仮想ディスクと同一容量の領域を、物理ハードディスク上に確保します。

○ 容量可変

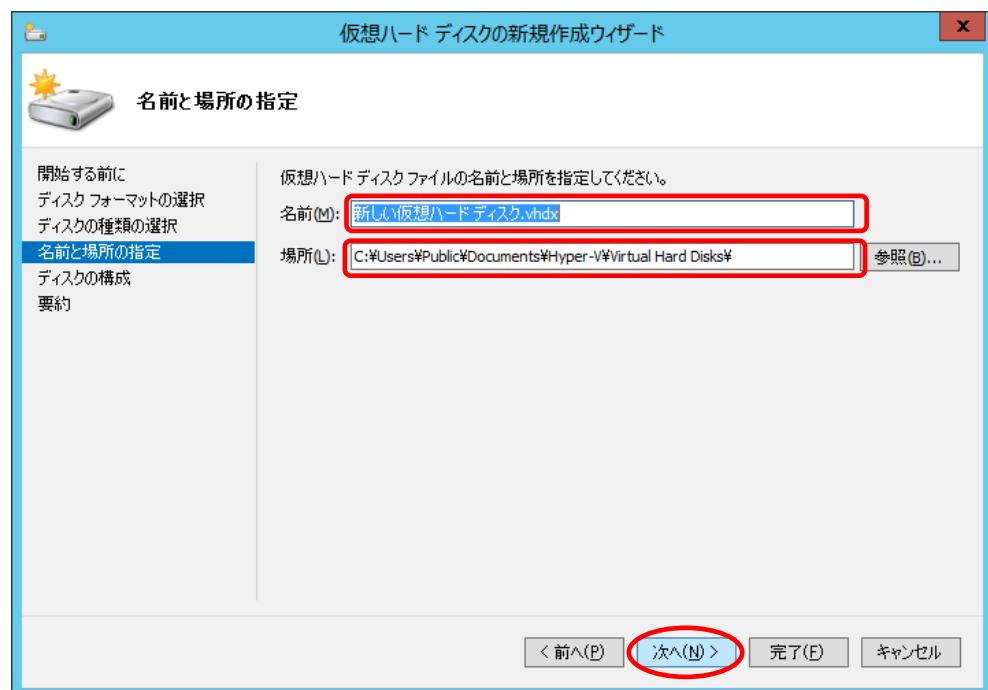
データの書き込みが増えるにつれて仮想ハードディスクのサイズが大きくなります。ハードディスクを効率的に使用できます。

○ 差分

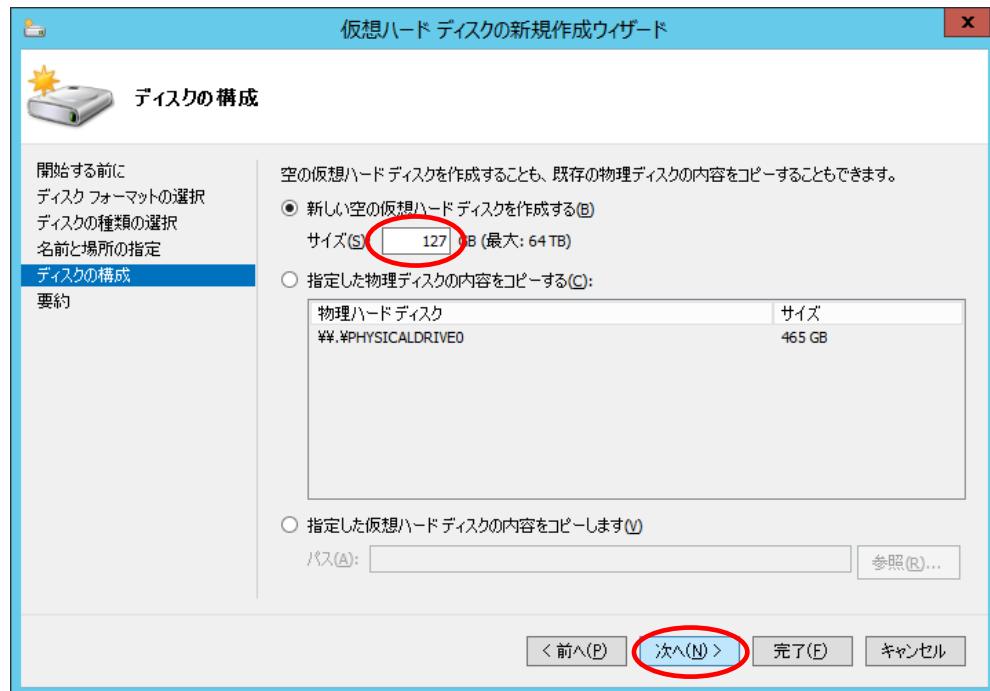
既存の仮想ハードディスクを「親」として関連付けられた「子」の仮想ハードディスクを作成します。

「親」の仮想ハードディスクは読み取り専用となり、「子」の仮想ハードディスクには変更部分のみ記録されます。

6. 仮想ハードディスクの[名前]と[場所]を指定し、[次へ]をクリックします。



7. 作成する仮想ハードディスクの[サイズ]を指定するか、物理・仮想ハードディスクのコピーを作成するかを選択し、[次へ]をクリックします。



ディスクの構成にはそれぞれ次の特徴があります。

○ **新しい空の仮想ハードディスクを作成する**  
空の仮想ハードディスクを作成します。

○ **指定した物理ディスクの内容をコピーする**  
指定した物理ハードディスクの内容をコピーした仮想ハードディスクを作成します。

[容量固定]にコピーしたときは、物理ハードディスクとほぼ同サイズの仮想ハードディスクが作成されます。

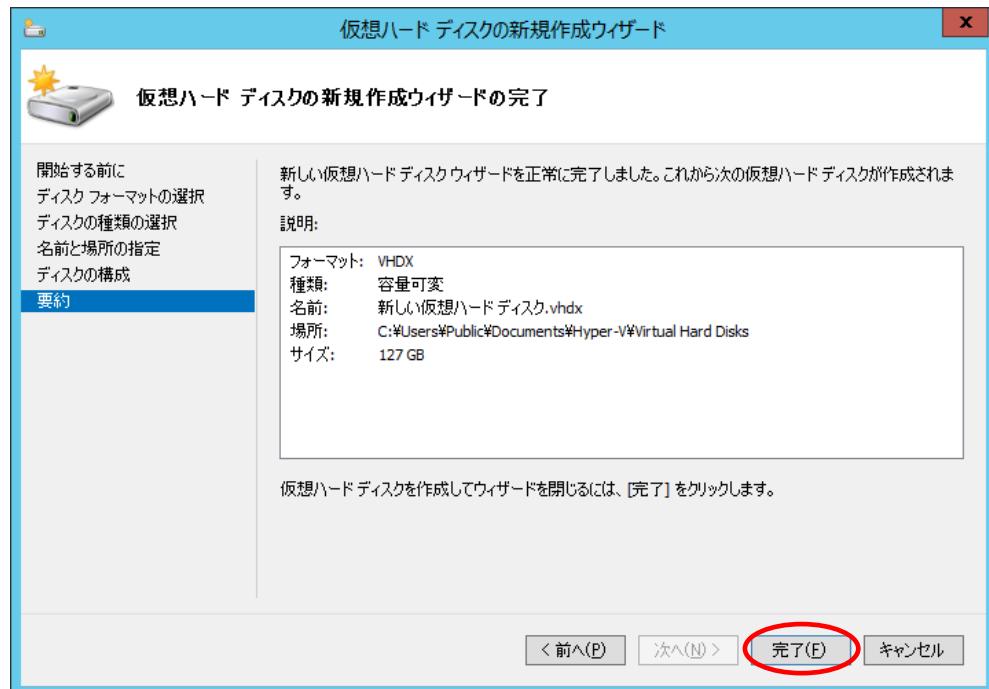
[容量可変]にコピーしたときは、物理ハードディスクのサイズが仮想ハードディスクの最大サイズになりますが、実際のファイルサイズはコピー元のデータサイズになります。

○ **指定した仮想ハードディスクの内容をコピーします**  
指定した仮想ハードディスクの内容をコピーした仮想ハードディスクを作成します。

[容量固定]にコピーしたときは、作成される仮想ハードディスクのファイルサイズ/最大サイズはコピー元の最大サイズになります。

[容量可変]にコピーしたときは、作成される仮想ハードディスクの最大サイズはコピー元の最大サイズになりますが、実際のファイルサイズはコピー元のデータサイズになります。

8. 設定内容を確認し、[完了]をクリックします。



Windows Server 2008 R2 (Service Pack 1 を含まない) または Windows 7 (Service Pack 1 を含まない) 以前の Windows OS を VHDX ファイルにインストールするときは、次の手順に従って、仮想ハードディスクを作成してください。

1. 管理者特権の PowerShell で次のコマンドを入力し、<Enter>キーを押します。

容量固定 VHDX ファイルを作成するとき

```
PS C:\Users\administrator>New-VHD -Path "VHDX ファイルの保存場所\ファイル名.vhdx" -SizeBytes VHDXファイルのサイズ -PhysicalSectorSizeBytes 512 -Fixed
```

容量可変 VHDX ファイルを作成するとき

```
PS C:\Users\administrator>New-VHD -Path "VHDX ファイルの保存場所\ファイル名.vhdx" -SizeBytes VHDXファイルのサイズ -PhysicalSectorSizeBytes 512 -Dynamic
```

SizeBytes のデフォルト単位は Byte です。その他、MB、GB などが指定できます。

作成中は次の進捗画面が表示されます。



2. 次の画面が表示されたら設定内容を確認し、問題なければ PowerShell を終了します。

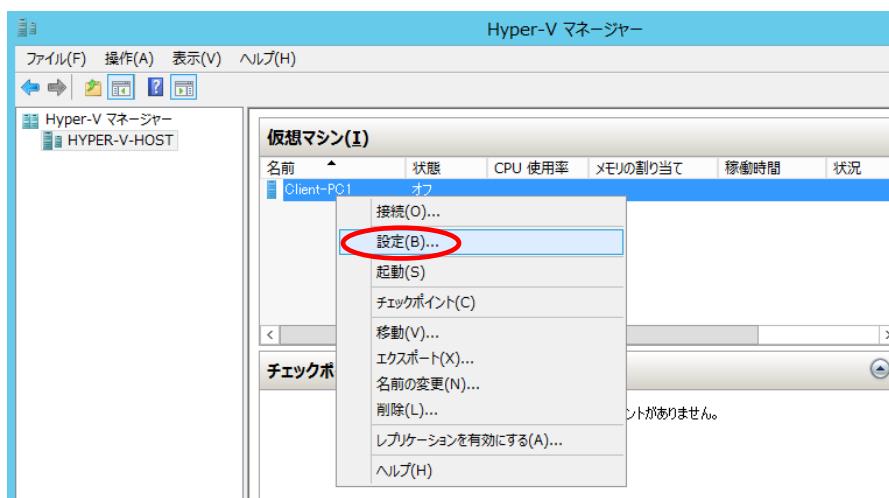
```
ComputerName      : HYPER-V-HOST
Path              : C:\Client-PC1.vhdx
VhdFormat         : VHDX
VhdType           : Fixed
FileSize          : 21479030784
Size              : 21474836480
MinimumSize       :
LogicalSectorSize : 512
PhysicalSectorSize: 512
BlockSize         : 0
ParentPath         :
DiskIdentifier    : 3b6065b7-b55f-4eeb-8bf5-91ab52a15ff6
FragmentationPercentage: 0
Alignment          : 1
Attached           : False
DiskNumber         :
Key               :
IsDeleted         : False
Number             :
```

以上で仮想ハードディスクの作成は完了です。

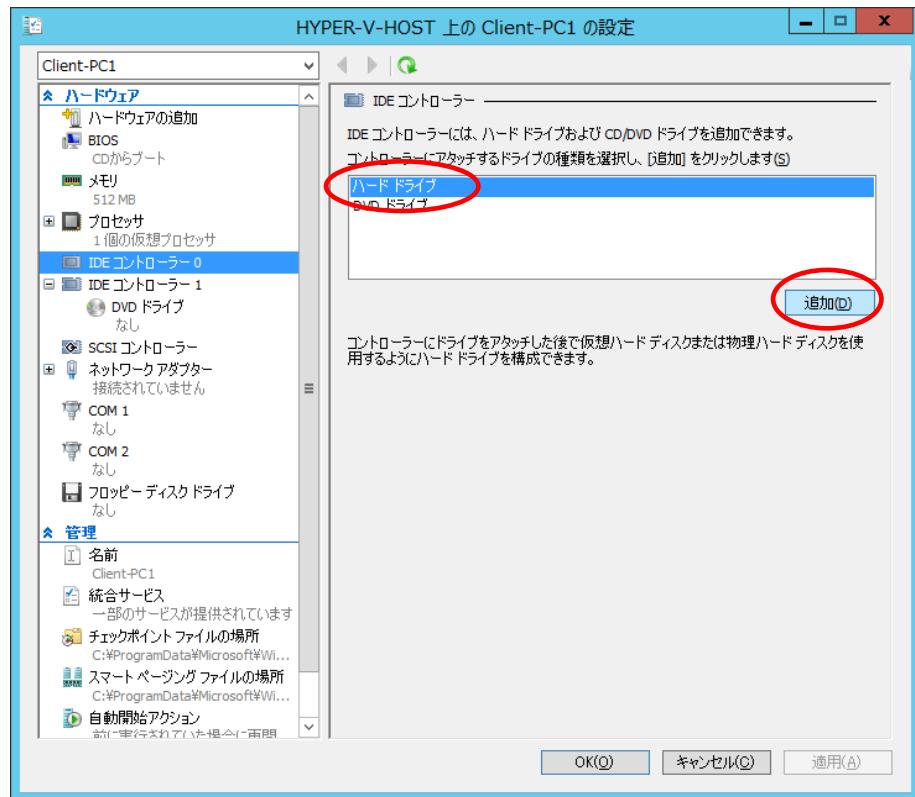
## ■ ゲスト OS のインストール

次の手順に従って仮想マシンにゲスト OS をインストールします。

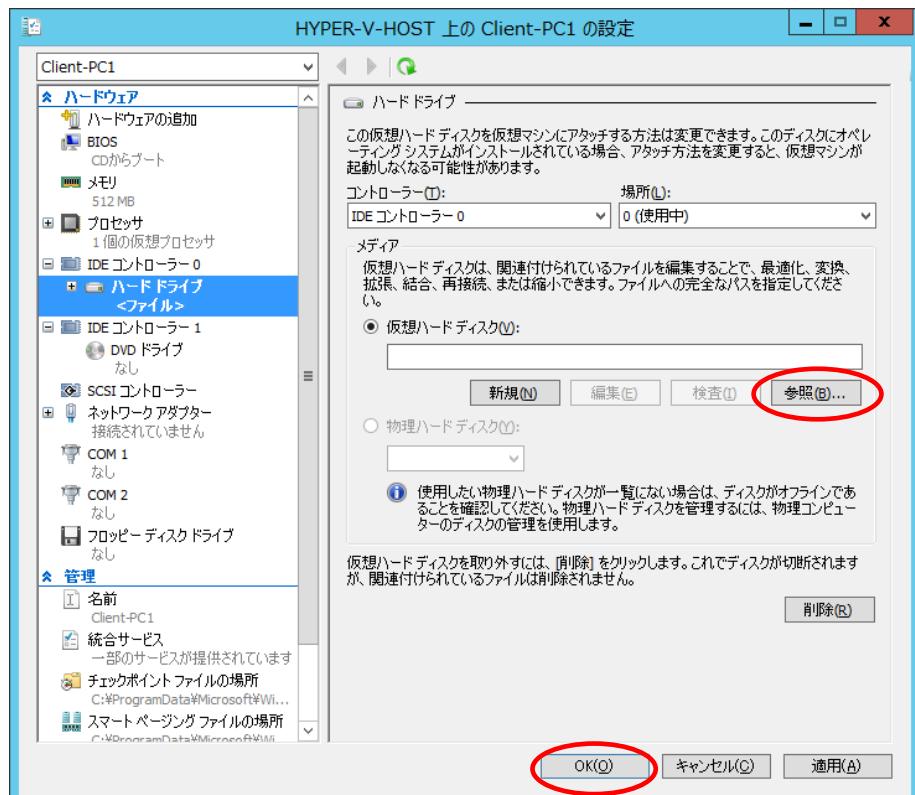
1. 物理 CD/DVD ドライブからインストールするときは、OS インストールメディアを物理 CD/DVD ドライブにセットします。
  2. 次の手順に従って仮想マシンにゲスト OS をインストールします。
  3. サーバーマネージャーから[ツール]をクリックし、[Hyper-V マネージャー]をクリックします。[Hyper-V マネージャー] 画面が表示されます。
- 仮想マシンの新規作成時に[仮想ハードディスクの接続]で[後で仮想ハードディスクを接続する]を選択したときは、次へ進んでください。
- 仮想マシンの新規作成時に[インストールオプション]で[後でオペレーティングシステムをインストールする]を選択したときは、手順 6 へ進んでください。
- 仮想マシンの新規作成時に[仮想ハードディスクの接続]で新規仮想ハードディスクを作成し、[インストールオプション]で適切な設定をしたときは、手順 9 へ進んでください。
4. 仮想マシンの一覧からゲスト OS をインストールする仮想マシンを右クリックし、コンテキストメニューから[設定]をクリックします。



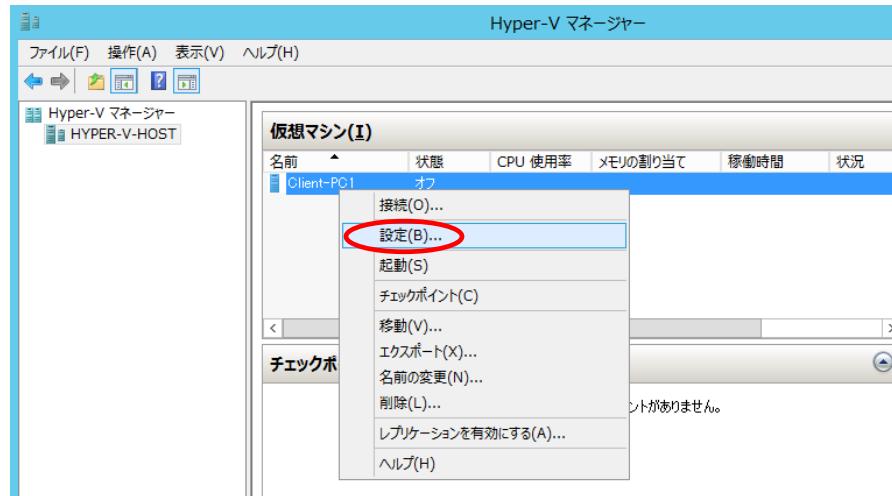
5. [IDE コントローラー 0] - [ハード ドライブ]を選択し、[追加]をクリックします。



6. [ハード ドライブ]画面で仮想ハードディスクを設定([参照]をクリックして設定)し、[OK]をクリックします。 設定画面が閉じます。



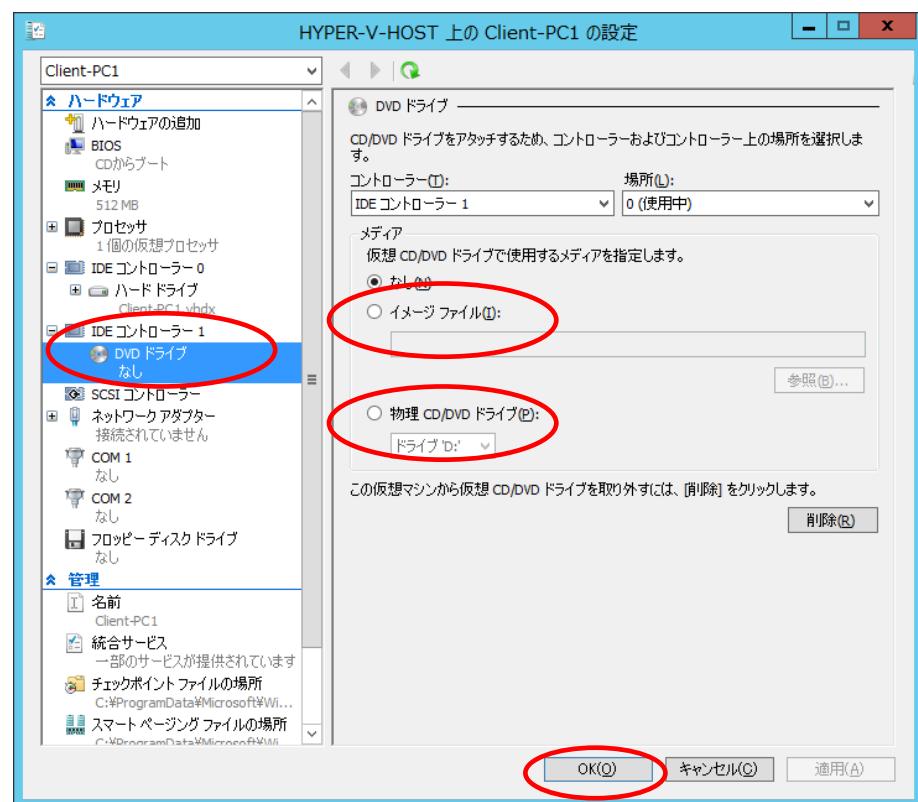
7. 仮想マシンを右クリックし、[設定]をクリックします。



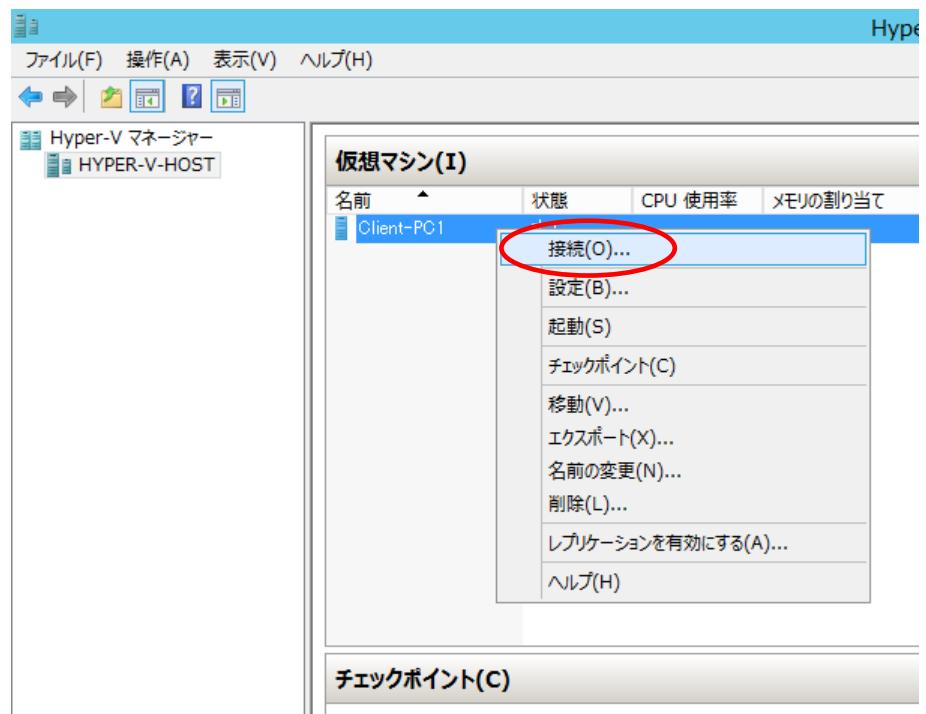
8. [IDE コントローラー1] - [DVD ドライブ]をクリックします。

9. [メディア]で次のいずれかを設定し、[OK]をクリックします。

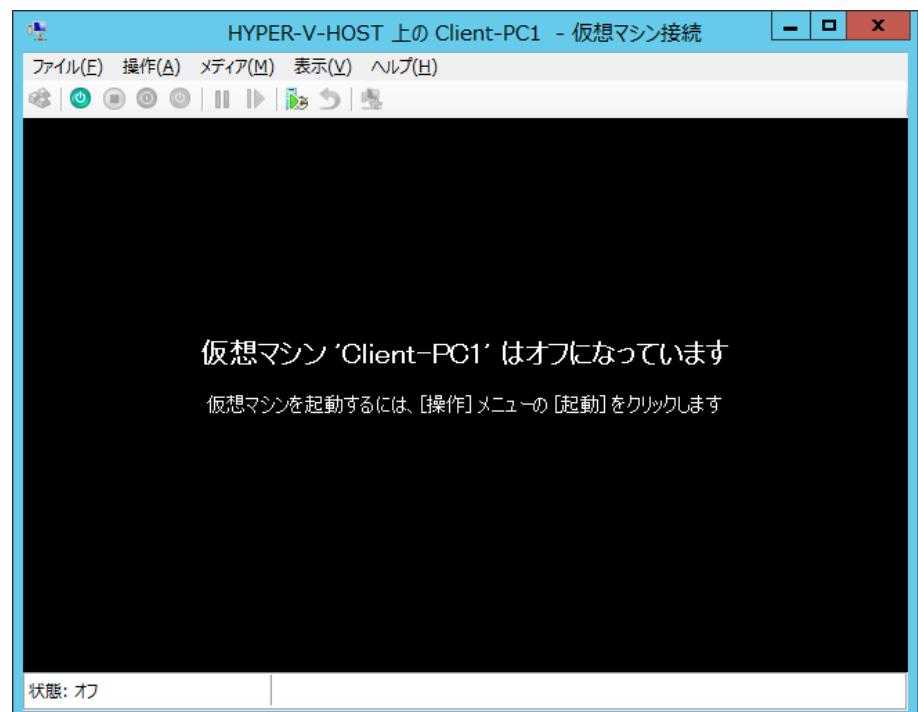
- イメージファイル
- 物理 CD/DVD ドライブ



10. 仮想マシン名を右クリックし、[接続]をクリックします。



[仮想マシン接続]画面が表示されます。



一部のゲスト OS では、統合サービスインストール前に仮想マシンからカーソルが外せません。  
仮想マシンからカーソルを外すときは、<Ctrl> + <Alt> + <←→>キーを同時に押します。

11. [仮想マシン接続]画面の左上にある  (起動ボタン)をクリックします。  
仮想マシンが起動します。



[仮想マシン接続]画面の[操作] - [起動]でも仮想マシンを起動することができます。

12. ゲスト OS のインストール画面が表示されます。  
画面の指示に従ってゲスト OS のインストールをしてください。  
ここでは例として Windows 7 をインストールします。



ゲスト OS のインストールでは、物理マシンへのインストールのときに必要となる「Starter Pack」や、追加ドライバのインストールは必要ありません。

ゲスト OS のログオン時に  $<\text{Ctrl}> + <\text{Alt}> + <\text{Del}>$  キーを押す必要があるときは、  
[仮想マシン接続]画面の左上にある  (Ctrl+Alt+Del ボタン)をクリックする  
か、 $<\text{Ctrl}> + <\text{Alt}> + <\text{End}>$  キーを押します。

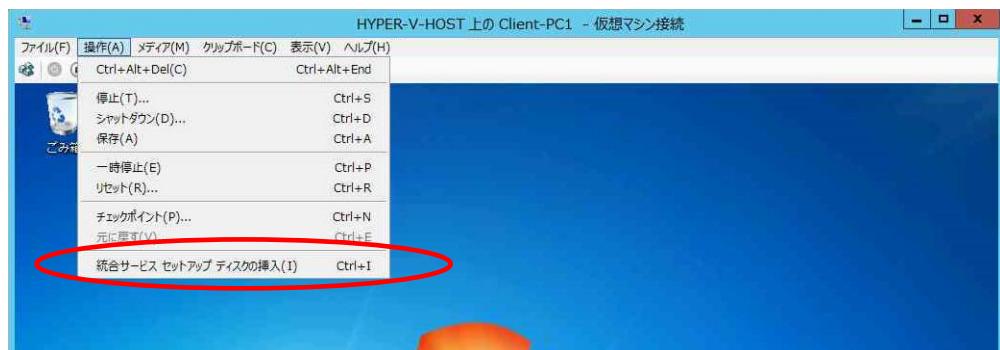
以上でゲスト OS のインストールは完了です。

## ■ 統合サービスのインストール

NX7700x シリーズで Hyper-V を使用するときは、ゲスト OS に「統合サービス」を必ずインストールしてください  
(統合サービスとは、Hyper-V 環境において性能面・操作性向上を図るための機能です)。

次の手順に従って仮想マシンに統合サービスをインストールします。

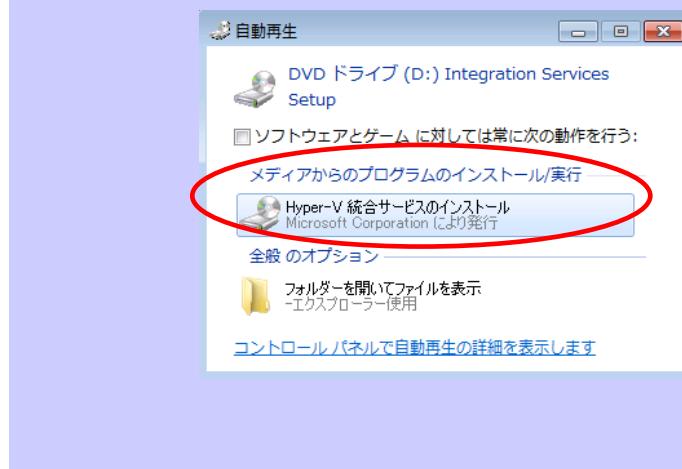
1. 仮想マシンを起動します。
2. [仮想マシン接続]画面の[操作]—[統合サービス セットアップ ディスクの挿入]をクリックします。



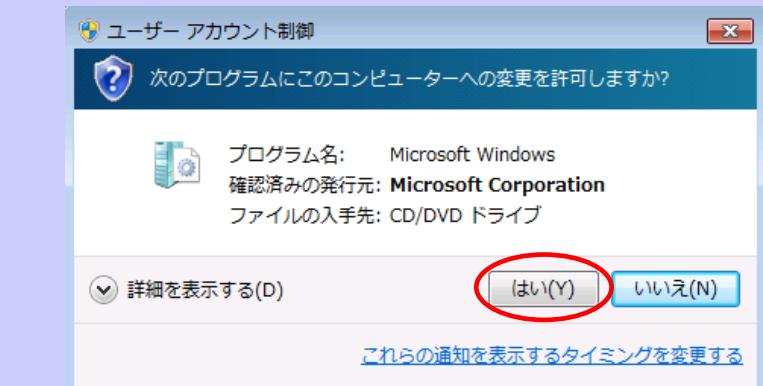
- 次の通知が表示されたときは、メッセージのリンクをクリックします。

**DVD ドライブ (D:) Integration Services Setup**  
タップして、このディスクに対して行う操作を選んでください。

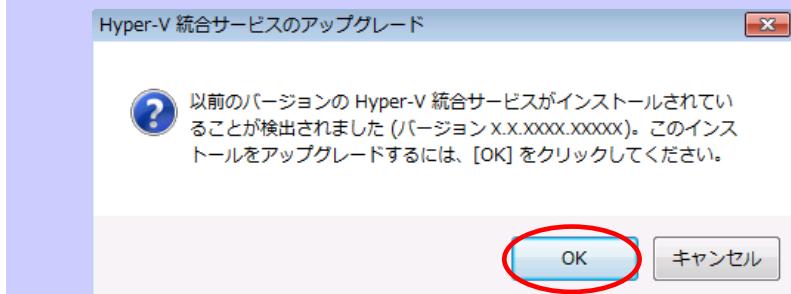
- 次のメッセージでは、[Hyper-V 統合サービスのインストール]を選択してインストールを続行します。



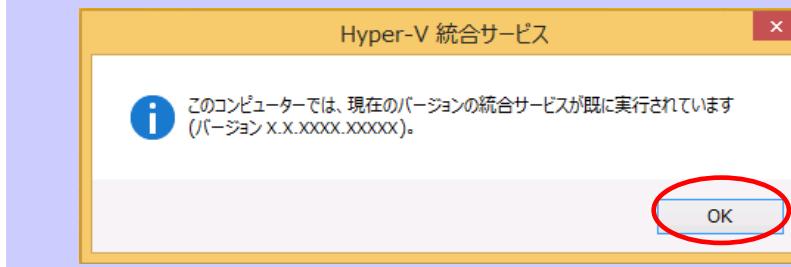
- 次のメッセージでは、[はい]をクリックします。



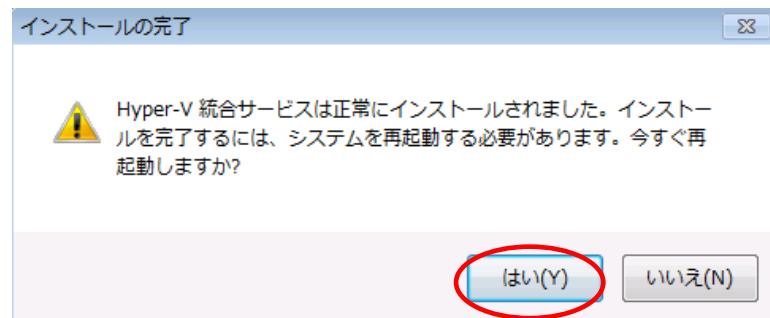
- 次のメッセージでは、[OK]をクリックします。



- 次のメッセージでは、すでに最新版の統合サービスが実行されています。[OK]をクリックして終了します。



- 次のメッセージでは、[はい]をクリックして再起動します。



以上で統合サービスのインストールは完了です。

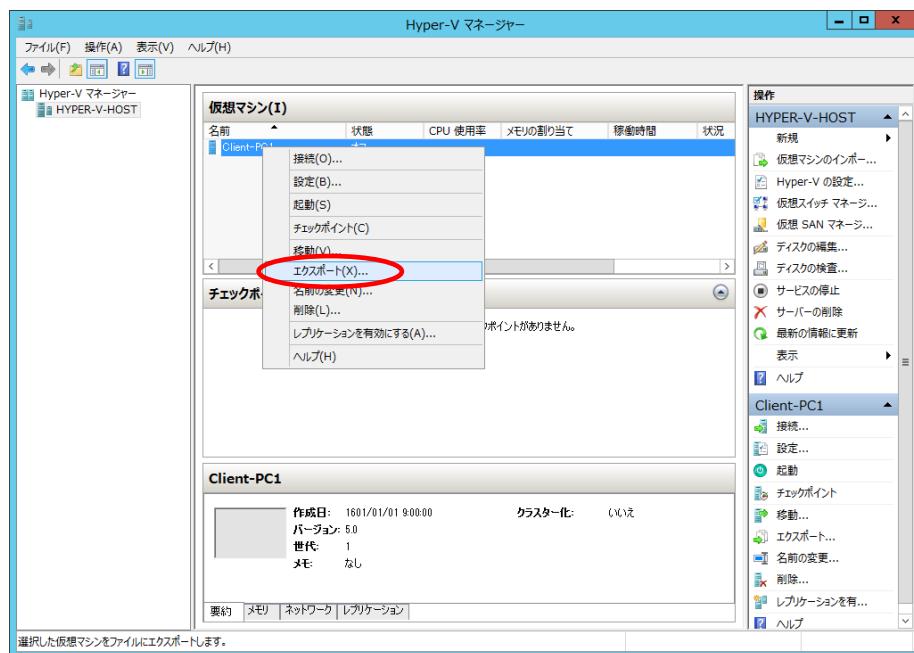
## 4 仮想マシンのエクスポートとインポート

ここでは、仮想マシンの複製と復元方法であるエクスポートとインポート方法について説明します。

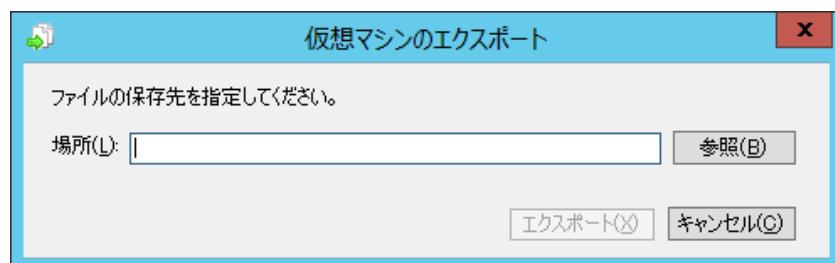
### ■ 仮想マシンのエクスポート

次の手順に従って仮想マシンをエクスポートします。

1. サーバーマネージャーから[ツール]をクリックし、[Hyper-V マネージャー]をクリックします。[Hyper-V マネージャー] 画面が表示されます。
2. 仮想マシンの一覧からエクスポート対象の仮想マシン名を右クリックし、[エクスポート]をクリックします。

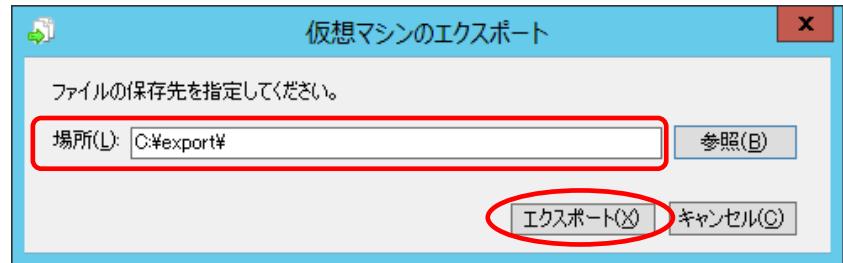


[仮想マシンのエクスポート] 画面が表示されます。

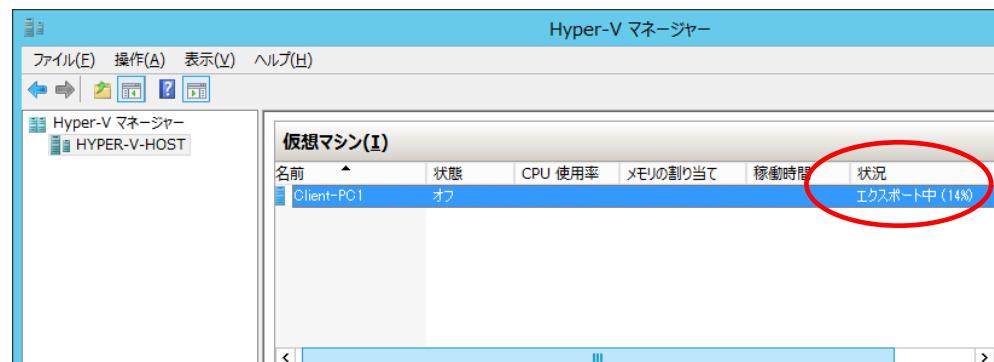


仮想マシンのエクスポートは、起動中の仮想マシンに対しても実行できます。  
エクスポートする仮想マシンを、事前に[停止]または[保存]状態にしておく必要はありません。

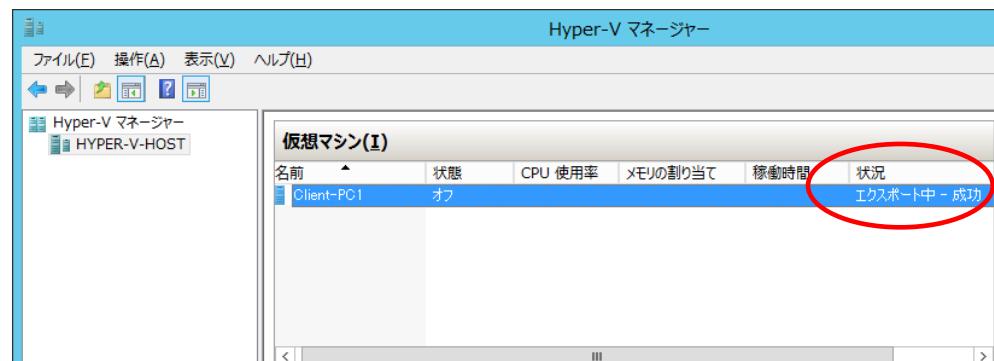
3. [場所]にエクスポート先を指定し、[エクスポート]をクリックします。  
仮想マシンがエクスポートされます。



仮想マシンのエクスポートが実行されている間は、[状況]に処理の進捗状況が表示されます。



仮想マシンのエクスポートが成功したときは、[状況]に[成功]と表示されます。  
その後、[成功]の表示が消えます。

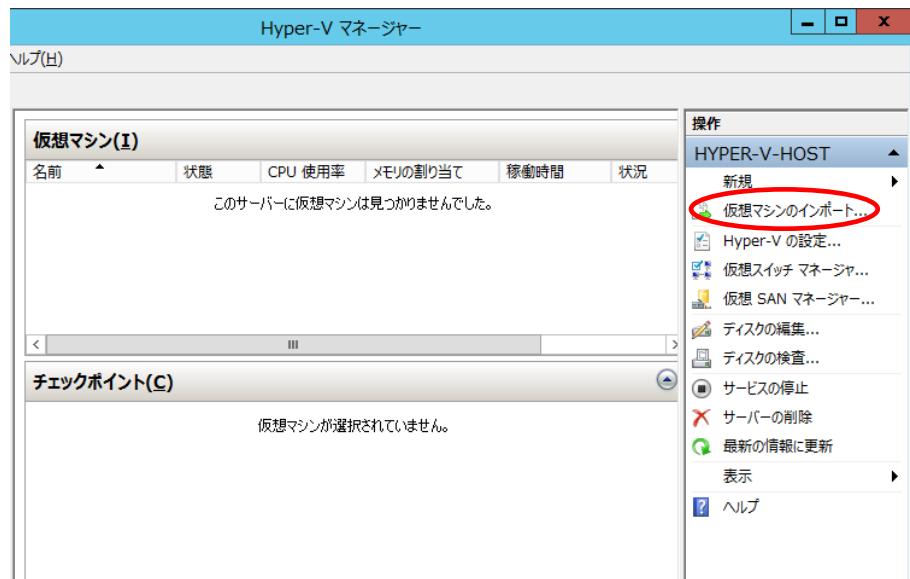


以上で仮想マシンのエクスポートは完了です。

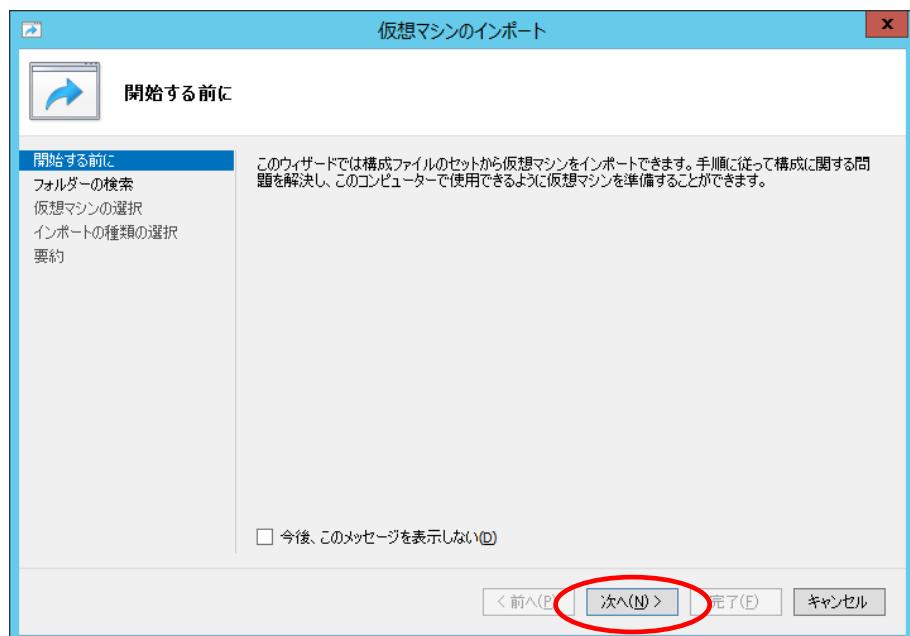
## ■ 仮想マシンのインポート

次の手順に従って仮想マシンをインポートします。

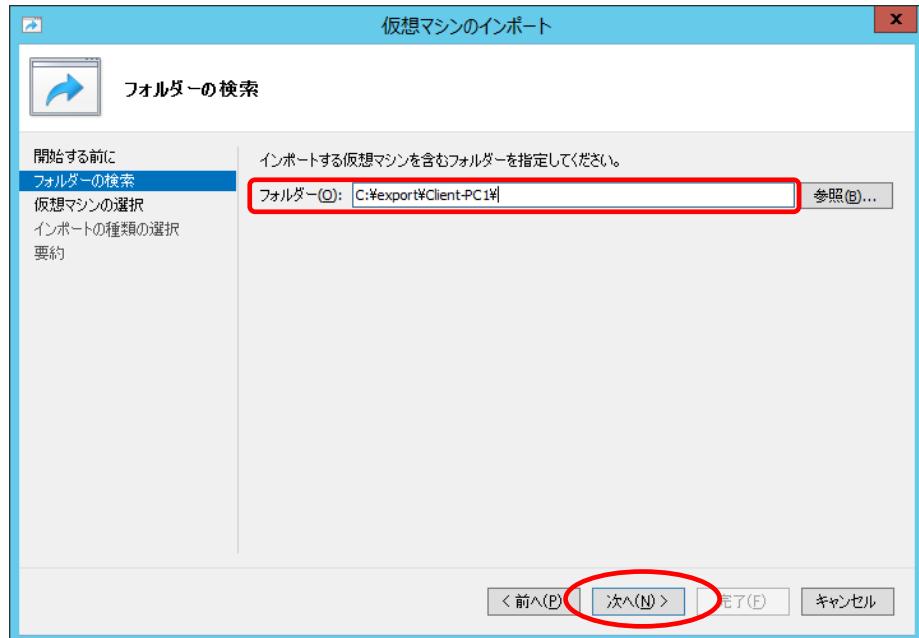
1. サーバーマネージャーから[ツール]をクリックし、[Hyper-V マネージャー]をクリックします。  
[Hyper-V マネージャー] 画面が表示されます。
2. 右ペインの操作メニューから[仮想マシンのインポート]をクリックします。  
[仮想マシンのインポート] ウィザードが表示されます。



3. 表示されている内容を確認し、[次へ]をクリックします。

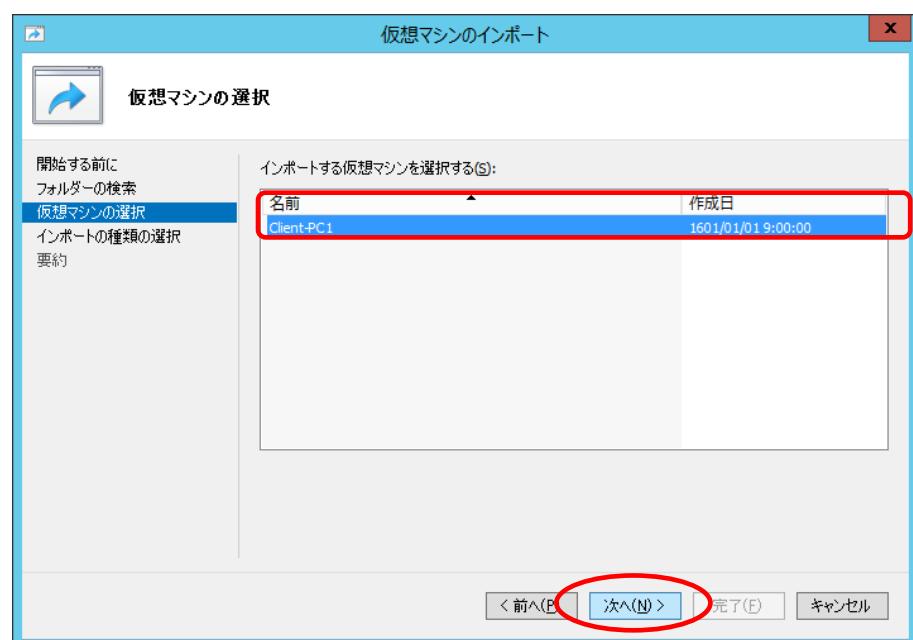


4. [フォルダー]にエクスポートしたときに作成される仮想マシン名のフォルダーを指定し、[次へ]をクリックします。

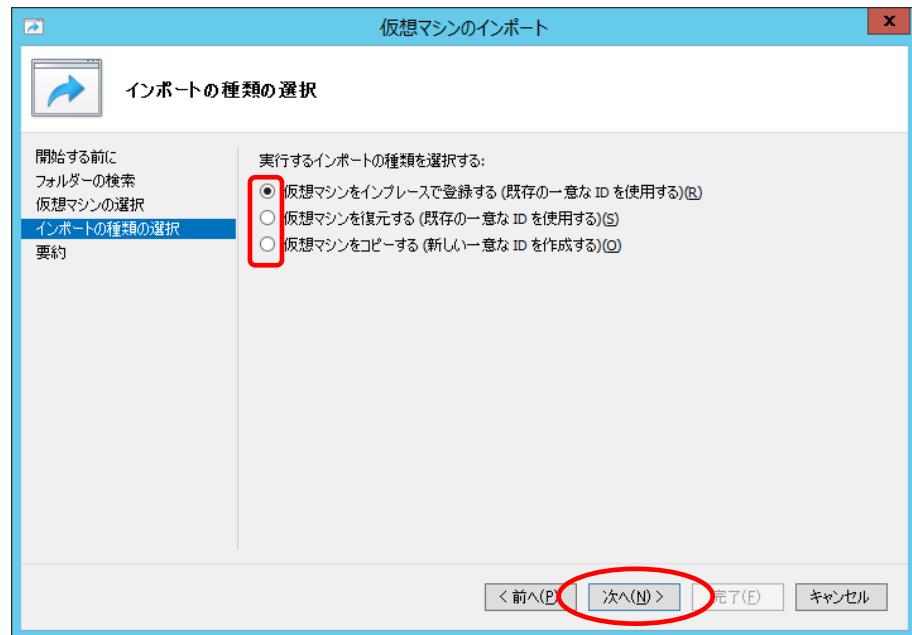


[フォルダー]には、エクスポートしたときに作成される[仮想マシン ID.xml]ファイルが存在するフォルダーも指定することができます。

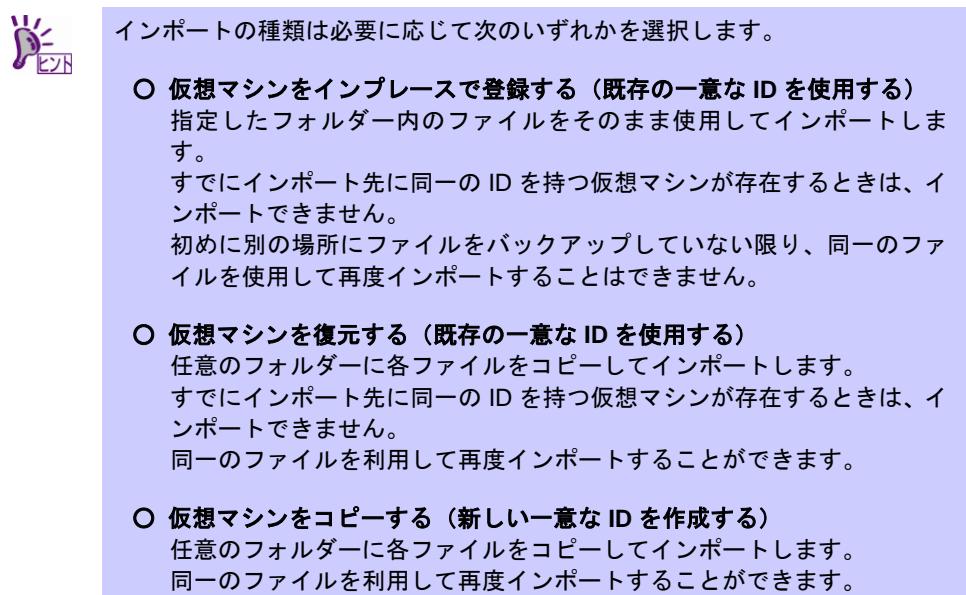
5. インポートする仮想マシンを選択し、[次へ]をクリックします。



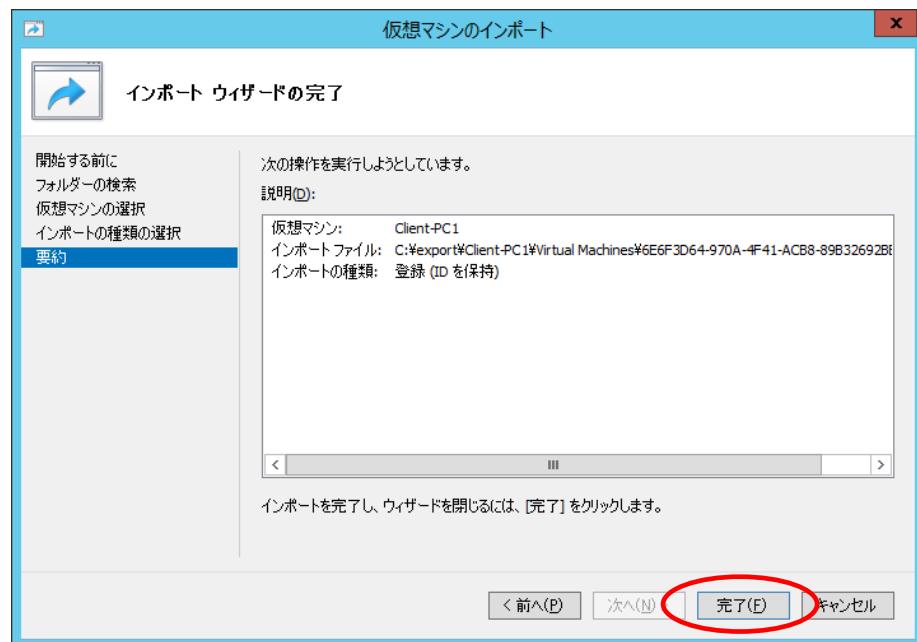
6. 実行するインポートの種類を選択し、[次へ]をクリックします。



ここでは例として[仮想マシンをインプレースで登録する]を選択します。



7. 設定内容を確認し、[完了]をクリックします。



以上で仮想マシンのインポートは完了です。

## 5 ゲスト OS について

### ■ ゲスト OS のライセンス認証

Hyper-V でゲスト OS をご利用いただくためには、ライセンス認証の手続きが必要です。ゲスト OS がライセンス認証済みかを確認し、必要に応じて手続きを行ってください。  
詳細は次の Web サイトを確認してください。

『ゲスト OS のライセンス認証について』  
[http://jpn.nec.com/nx7700x/support/ws2012r2\\_hyper-v.html](http://jpn.nec.com/nx7700x/support/ws2012r2_hyper-v.html)

## 6 トラブルシューティング

Hyper-V を有効にするときに、出力される可能性のあるエラー・警告レベルのイベントログについては、次の Web サイトを参照してください。

『Hyper-V で出力される可能性のあるイベントログについて』  
[http://jpn.nec.com/nx7700x/support/ws2012r2\\_hyper-v.html](http://jpn.nec.com/nx7700x/support/ws2012r2_hyper-v.html)